

令和 6 年度 事業報告

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

目 次

川崎市社会福祉協議会

	頁
アイコンについて・・・・・・・・・・・・・・・・	1
基本方針・重点事業・・・・・・・・	3
1 法人運営事業・・・・・・・・	5
2 調査・研究事業・・・・・・・・	5
3 研修事業・・・・・・・・	6
4 企画・広報事業・・・・・・・・	6
5 区社協推進事業・・・・・・・・	7
6 助成事業・・・・・・・・	7
7 部会・委員会事業・・・・・・・・	8
8 福祉基金運営事業・・・・・・・・	11
9 資金貸付事業・・・・・・・・	11
10 共同募金事業・・・・・・・・	12
11 受託事業・・・・・・・・	12
12 ボランティア活動振興センター事業・・・・・・・・	15
13 あんしんセンター事業・・・・・・・・	17
14 地域生活支援ＳＯＳかわさき事業・・・・・・・・	19
15 総合研修センター管理経営事業・・・・・・・・	20
16 居宅介護等事業・・・・・・・・	21
17 老人いこいの家管理経営事業・・・・・・・・	21
18 老人福祉センター管理経営事業・・・・・・・・	21
19 公益事業・・・・・・・・	22
20 民生委員児童委員活動及び 川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働・・・・・・・・	24
21 災害活動関連事業・・・・・・・・	24
22 その他・・・・・・・・	24
川崎市川崎区社会福祉協議会・・・・・・・・	26
川崎市幸区社会福祉協議会・・・・・・・・	32
川崎市中原区社会福祉協議会・・・・・・・・	39
川崎市高津区社会福祉協議会・・・・・・・・	45
川崎市宮前区社会福祉協議会・・・・・・・・	54
川崎市多摩区社会福祉協議会・・・・・・・・	61
川崎市麻生区社会福祉協議会・・・・・・・・	69

＜アイコンについて＞

各事業にアイコンを付け、どのような方向性で進めていくか可視化しています。
これにより、中長期の地域福祉活動計画と単年度の事業計画との関連性を持たせます。

取組方針	アイコン
1 「ふくし」の心が育つ取組 地域のみんなの暮らしや地域の理解を促進すると共に、地域に住む一人ひとりの立場に立って、互いに尊重し支え合い、地域における課題を他人事ではなく自分事として捉える「ふくし」の心が育つ取組を推進し、幼少期から「ふくし」の心が育まれる環境をつくります。	 1 心が育つ 取組
2 多様化する地域課題・生活課題への対応 要支援世帯の早期発見及び早期支援のためのアウトリーチの強化により、日頃からの地域における顔の見える関係づくりを通して、横断的な相談対応体制を構築します。	 2 地域生活課題 への対応
3 「伝わる」広報啓発 市社協に関する事業や、地域の様々な団体・活動の情報発信を通じ「ふくし」への理解を広め、川崎市の地域福祉を推進します。 また現在デジタル社会の形成がすすめられているなか、情報から取り残される人がいないよう支援をするとともに、より多くの人へ情報が届くよう、ICTの活用も含め様々な手法を取り入れ「伝わる」広報啓発に取り組みます。	 3 「伝わる」 広報・啓発
4 活用の見える化～寄附文化の醸成～ 地域福祉を推進する参加方法である寄附文化の醸成に向け、活用の見える化に力を入れ、理解を促進すると共に寄附や募金がしやすい環境や仕組みづくりを行います。 持続可能な地域福祉推進に必要な取組や事業、地域福祉活動団体や住民の自発的・主体的な活動の財源確保に向け、住民、企業などに対し募金や寄附の呼びかけを行います。	 4 寄附の 見える化
5 場づくり・機会づくり 「やりがい」「いきがい」「健康づくり」のきっかけにつながる住民同士の交流、住民の主体的な活動への参加促進を通じ、自助、互助の取組振興、介護や社会的孤立などの地域生活課題の予防や解消、把握などにもつながる場づくりや、機会づくりを行います。	 5 場・機会 づくり

取組方針	アイコン
6 住民主体の活動の振興 ボランティアなど地域福祉活動の担い手づくりや育成、住民の主体的な活動者や団体に 対し活動しやすい環境整備や交流の機会づくり、様々な情報提供や活動促進に向けた 支援を行います。	 住民主体の 活動振興
7 福祉人材の発掘・育成・支援 様々な手法により福祉の仕事の魅力を発信し、地域福祉を支える専門的人材の発掘 及び育成を行うとともに、専門性や技能の向上に向けた取組を推進します。 また、福祉の担い手が誇りと働きがいを持って福祉に関わることができるよう、継続的に支 援します。	 人材発掘 育成・支援
8 多種多様な社会資源同士の連携強化と協働 福祉分野以外の社会資源同士の連携強化、制度や既存の仕組みでは解決できない 課題や地域のニーズなどに協働で対応できるよう、分野別の組織、専門領域などの枠を 超えたネットワークづくりを推進します。	 連携強化と 協働
9 災害に強い地域づくり 多発する大規模な自然災害をはじめ、様々な災害時の対応を見据え、住民、関係団 体・機関や地域資源の把握と連携強化、地域住民同士のつながりづくりを平時より推進 します。 また災害発生後は、被災された地域、住民への生活再建に必要な支援が円滑に届く よう、ICTの活用や平時から構築する社協のネットワークの活用を含めた支援体制の構築 を進めます。	 災害に強い 地域づくり
10 持続可能な地域福祉の推進に向けた調査研究の強化 地域福祉活動の活性化や効果的な実施に加えて、将来にわたり地域福祉活動を推進 していくため、地域課題や地域ニーズの把握、解決に向けた調査研究を強化します。	 調査研究の 強化

令和6年度 事業報告

基本方針

原材料費の上昇等を原因とした物価高騰の影響は広範囲に及び、特に食品・エネルギー価格の上昇が市民生活に大きな負担を与えています。雇用側では賃金上昇の取組を行っているものの実質賃金が低下している状況が続く、人件費上昇による福祉人材確保の問題にも直面しています。

令和6年の出生数は68万6,061人と、9年連続過去最少を更新し、国の推計よりおよそ15年早いペースで少子化が進む一方、65歳以上の高齢者は3625万人（高齢化率29.3%）と、過去最多となり、介護・医療サービスの需要が急増し、社会保障制度の持続性含め福祉をとりまく状況は厳しくなっています。

地域における生活課題や福祉ニーズが多様化、複雑化、深刻化する中、第6期地域福祉活動計画では、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的なサービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」の実現を目指すことを明記し、川崎市と相互に連携を図りながら取組を推進しています。

地域包括ケアシステムの推進及び地域共生社会実現のために、川崎市と包括的支援体制の構築に向けて議論を進めるとともに、当会とパートナーシップ協定を締結した日本電気株式会社と町内会自治会支援アプリ開発の取組など、地域住民、社会福祉法人及び企業など様々な担い手とともに地域福祉を推進しています。

困窮者支援として、困窮の長期化等の課題を抱える生活福祉資金特例貸付借受人に対し、生活再建支援室に相談支援を行う専門の支援員を配置し、アウトリーチによるプッシュ型の支援を行っています。

また、令和6年能登半島地震被災地に職員を延べ17名派遣し、被災地の災害ボランティアセンター運営支援を行うとともに、今後の地域福祉の中心を担う市内学生が被災地を訪れ、災害時における課題やニーズを理解し、今後の地域づくりに必要なことを学ぶ機会の創出を目的とした災害ボランティア活動事業を実施しました。

経営面においては、介護業界を取り巻く状況が厳しい中で、社協が運営する介護事業は黒字経営を維持しました。その他の事業においても社協の会員ネットワークを生かした地域福祉を推進した結果、川崎市から新たな受託事業を獲得につながるなどの評価を得ています。このように、地域に根差した活動を継続するための財源確保、経営基盤の強化を意識して取り組みました。

以下は、特に重点的に実施した事業です。

◆重点事業◆



1 地域包括ケアシステムの一層の推進

当会の第6期地域福祉活動計画の基本理念である「みんなで支えあい ともに安心して その人らしく暮らせる 川崎のまちづくり～ともに目指す地域共生社会の実現～」の実現、さらに地域包括ケアシステムの推進に向けて、本会職員と行政職員の意見交換を行いながら、地域課題の解決に向けた連携強化を図りました。また、本会のネットワークを活用し地域住民、関係機関、企業のコーディネートを行い、住民主体による生活課題解決への取組を支援しました。



2 組織経営基盤の強化

介護保険等事業について、人件費率の適正化、収益率の向上を進め、黒字経営を達成しました。

食糧支援を通じた地域ネットワークづくり、新規建設大型マンション向けに地域組織化による地域課題解決に向けた住民連携支援を実施し、川崎市の評価も得られ、対象地域拡大にともなう受託金増加や事業の継続受託につなげました。

法人全体での経営基盤の強化と経営健全化の取組として、経営状況についての共有を実施し、今後の持続的な社協運営に必要な新規事業の可能性について検討を開始しました。



3 生活困窮者への支援

生活福祉資金特例貸付における借受人のうち、生活困窮が継続し償還猶予や償還免除となった方、償還ができていないにも関わらず支援策につながっていない未応答の方、生活困窮の状況が継続している方々に対し、専門機関との連携のもと、アウトリーチによる生活再建を図る支援を行いました。また、支援内容を福祉関係者だけでなく、多くの人に内容を伝えるため、「生活困窮のリアル第二弾」を発行しました。



4 想定される災害に備えた地域防災力の向上

令和6年能登半島地震による被害に対して、現地災害ボランティアセンターの運営・支援を行うため、延べ17名の社協職員を派遣しました。また、今後川崎市で発災した場合に備え、災害ボランティア活動に企業がどのように関わられるかといった観点から、川崎市で災害ボランティアセンターを設置した際の現状での課題などについて話し合う「災害ボランティアセンターに関する企業ミーティング」を開催しました。また、今後の地域福祉の中心を担う市内学生が被災地を訪れ、災害時における課題やニーズを理解し、今後の地域づくりに必要なことを学ぶ機会の創出を目的とした災害ボランティア活動事業を実施しました。

事業報告の内容

1 法人運営事業【252, 788千円】

【サービス区分事業活動支出 251, 210千円】

【サービス区分施設整備等支出 939千円】

【共同募金配分金 639千円】



(1) 三役会、理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催

- ア 三役会の開催 4回（6月3日、10月29日、2月13日、3月6日）
- イ 理事会の開催 3回（6月10日、11月5日、3月12日）
- ウ 評議員会の開催 3回（6月25日、3月14日、3月25日）
- エ 評議員選任・解任委員会の開催 1回（6月10日）

(2) 監事会の開催、会計監査人監査の実施

- ア 監事会の開催 2回（5月27日、11月18日）
- イ 会計監査人（明神監査法人）による監査の実施
- ウ 会計監査人による監査報告の実施
- エ 会計監査人による監査計画の説明（11月18日）

(3) 会員の増強 令和6年度新規入会会員

- ア 正会員 14（第2種1法人、第6種12施設、第11種1団体）
- イ 協賛会員 3

	R6実績	R5実績
正会員数	502	499
協賛会員数	17	14

(4) 苦情解決の実施と推進

- ア 苦情受付件数 0件

2 調査・研究事業【12, 654千円】

【サービス区分事業活動支出 11, 087千円】

【共同募金配分金 1, 567千円】



(1) 地域包括ケアシステムや地域福祉の推進

- ア 第6期地域福祉活動推進計画の推進
理事会において令和6年度進捗状況について報告（3月12日）
- イ 区社協地域課における総合相談（ふくし相談）の統計化
相談件数7区合計 4, 260件
- ウ 包括的支援体制整備ワーキング
川崎市と川崎市社会福祉協議会による包括的支援体制整備構築に向けた会議
4月24日、7月29日、12月20日
- エ SDGs パートナーまつりへの参加
来場者（市民・事業者）のSDGsへの関心を高め、イベントの企画・出展等をSDGs ゴールドパートナーが行うことで、パートナー同士の繋がりや気運の醸成を図ることを目的とした、NECプロボノ倶楽部主催のイベント
(ア) 実施日 10月12日
(イ) 出展内容：XRゲームで交流しよう（神奈川工科大学と連携しての企画）、オレンジリボン・共同募金の啓発
- オ 子どもがつくる町ミニたまゆりへの参加
川崎市にある様々な企業・団体の仕事を子どもたちが体験することで、自分が住んで

いるまちについて理解と愛着を育み、川崎市ブランドイメージへの共感を喚起することを目指した、田園調布学園大学主催のイベント

(ア) 実施日 11月16日、11月17日

(イ) 出展内容：こども相談員～まちの困りごとを君が解決！～

カ かわさき起業家オーディションへの協賛と参加

企業との繋がりづくりと組織PRを目的に、協賛とオーディションに参加

オーディション実施日：7月19日、9月20日、12月6日、3月7日

(2) 高齢化社会における課題解決及びコミュニティ支援に向けた新規事業の検討

ア 町内会自治会支援アプリ「まちくるみ」の開発に向けた検討

町内会・自治会の協力によって支えられてきた社協として、「加入率の低下」や「役員の高齢化・負担の増加」といった町内会・自治会が抱える課題に対応するため、NECとの協働により、デジタル技術を活用した課題解決を目指し、アプリ開発に向け検討

(ア) 12月 実証実験用アプリ（まちくるみ）完成

(イ) 1月 中原区において実証実験開始

イ 市民ソリューション「(仮称) nanafuku」の開発に向けた検討

超高齢社会を迎える中、高齢者のウェルビーイングの実現に向けて、多様な出会いや機会を提供し、一人ひとりが自分らしい人生を主体的にデザインできるよう支援することをコンセプトに、対話型AIを活用したアプリケーションの開発に向け検討

(ア) 12月 nanafuku試作機作成

(イ) 1月 職員を対象としたMVP実施

※MVP＝「Minimum Viable Product」の略、顧客に価値を提供できる機能を持った製品

3 研修事業【969千円】

【サービス区分事業活動支出 15千円】

【共同募金配分金 954千円】



(1) 職員研修の実施

	R6実績	R5実績
研修数 (件)	10	14
受講人数 (延べ)	1015 (動画視聴含む)	211 (動画視聴除く)

ア 新規採用職員研修 4回 (4月4日、6月14日、9月11日、12月12日)

イ 職員基礎研修 2回 (7月10日、12月～1月 動画配信・効果測定)

ウ 職位に応じた研修 3回 (8月21日、11月～12月、1月15日)

(2) 各種研修への参加・職員資格取得補助

ア 全社協、県社協、その他の研修への参加 延べ13名

イ 職員の資格取得の補助 延べ15名

4 企画・広報事業【11,926千円】

【サービス区分事業活動支出 9,094千円】

【共同募金配分金 2,832千円】



(1) 第60回川崎市社会福祉大会の開催

ア 実行委員会 3回 (6月20日、9月4日、10月25日)

イ 社会福祉大会 (10月25日) 参加者780名

(2) 広報紙「川崎の社会福祉」の発行

ア 広報紙「川崎の社会福祉」 年4回 (604号～607号) 各12,000部発行

(3) 広報企画検討委員会の開催

(4月22日、7月24日、10月22日、1月27日)

(4) ホームページの運用と管理

ア ホームページ

- (ア) 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 (<https://www.csw-kawasaki.or.jp/>)
- (イ) 川崎市総合福祉センター (エポックなかはら) (<https://sfc-kawasaki.jp/>)
- (ウ) かわさき福祉情報サイトふくみみ (<https://k-fukumimi.com/>)
- (エ) 総合研修センター (<https://www.kensyu-c.jp/>)
- (オ) 施設部会 (<https://csw-kawasaki.or.jp/shisetsu/>)

イ SNS (フェイスブック、Instagram、LINE、YouTube、X (旧Twitter) 等)

- (ア) 川崎市社会福祉協議会公式フェイスブック、Instagram、LINE、YouTube、X
- (イ) 川崎市社会福祉協議会 (災害情報専用) フェイスブック、X
- (ウ) かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック、YouTube
- (エ) ボランティア活動振興センター フェイスブック
- (オ) 総合研修センター フェイスブック、YouTube
- (カ) 福祉人材バンク フェイスブック、Instagram、YouTube
- (キ) 施設部会 フェイスブック、Instagram、YouTube、X
- (ク) 老人福祉センター (多摩・麻生) YouTube

5 区社協推進事業【428千円】

【サービス区分事業活動支出 278千円】

【共同募金配分金 150千円】



(1) 区社協事業との連携・協働

ア 川崎市社協・区社協間のグループウェア活用等による情報提供・情報交換

イ 地域課長会議 12回

(4月11日、5月9日、6月13日、7月11日、8月8日、9月12日、
10月10日、11月14日、12月12日、1月9日、2月13日、3月13日)

ウ 経理担当者会議 3回 (4月17日、7月24日、12月25日)

エ ふくし相談担当者会議 3回 (6月4日、10月18日、1月24日)

オ 民生委員児童委員協議会担当者会議 1回 (5月2日)

カ 区社協地域課職員研修 10回

(4月10日、4月24日、7月12日、8月5日、8月28日、9月3日、10月11日、
11月12日、12月5日、12月6日)

(2) 地区・区社協役職員等の研修会の開催 (地域部会事業)

ア 地域部会トップセミナー 1回 (11月27日)

イ 地区社協役員等研修会 1回 (2月18日)

ウ 地区社協運営強化講習会 3回 (9月4日、9月10日、12月19日)

6 助成事業【7,860千円】

【サービス区分事業活動支出 7,860千円】



(1) 社会を明るくする運動への協力

第74回川崎市社会を明るくする運動に助成 助成額20,000円

(2) 民間老人いこいの家運営費助成事業

ア 久地第二老人いこいの家に助成 助成額350,000円

イ 二子老人いこいの家に助成 助成額 350,000円

(3) 民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業

施設部会を開催し、施設部会及び各協議会の研修事業等に対し助成
315施設 計 1,934,000円

(4) ふれあい活動支援事業の推進

ア 会食活動に助成 101団体 計 13,859,000円
イ 配食活動に助成 4団体 計 720,000円
ウ ミニデイサービス活動に助成 9団体 計 1,829,000円
エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催（11月19日、1月28日）

(5) 法定外緊急援護事業資金の交付（生活困窮者緊急援護資金）

市内福祉事務所による生活困窮者緊急援護資金事業に交付 総額 260,000円

(6) 令和6年度わくわく親子フェスタ

県社協「令和6年度わくわく親子フェスタ」に交付 20,000円

(7) 福祉基金による団体等助成

福祉活動団体に助成 20団体 計 4,774,265円

(8) 障害者団体等活動助成金

障害者団体等に助成 10団体 計 839,500円

7 部会・委員会事業【8,205千円】

【サービス区分事業活動支出 6,245千円】

【共同募金配分金 1,960千円】

(1) 部会・協議会の開催、交流事業及び研修事業等の実施

ア 地域部会

(ア) 部会議 2回（6月6日、3月5日）
(イ) 正副部会長会議 3回（5月23日、9月5日、2月18日）
(ウ) 地域部会トップセミナー【再掲】 ⇒5-(2)
(エ) 地区社協役員等研修会【再掲】 ⇒5-(2)
(オ) 地区社協運営強化講習会【再掲】 ⇒5-(2)

イ 法人経営者部会

(ア) 部会議 2回（6月4日、3月書面決議）
(イ) 企画委員会 3回（6月3日、12月2日、3月5日）
(ウ) 研修会 1回（8月27日）
(エ) 情報提供の実施

ウ 施設部会

(ア) 部会議 7回（5月31日、8月1日、10月8日、12月9日、1月23日、2月20日、3月24日）
(イ) 運営推進会議 6回（8月1日、10月8日、12月9日、1月23日、2月20日、3月24日）
(ウ) 研修会 2回（9月11日、9月26日）
(エ) ふくしの出張講座 15件（19施設）
(オ) 第65回大都市社会福祉施設協議会（北九州市大会）に向けた協議運営協議会 1回（11月11日）



(カ) 川崎市や学校関係、企業等との協働

※NECとのパートナーシップ協定を踏まえての内容は下記保育協議会に記載

(キ) その他（会員施設へ各種研修会や助成金、制度情報等をメール配信）

エ 保育協議会

(ア) 総会 1回（5月9日）

(イ) 代表者委員会 5回（4月9日、6月27日、8月20日、10月24日、1月16日）

(ウ) 保育研修会 2回（5月9日、10月3日）

(エ) 川崎市内保育士養成校との意見交換会 7回（6月4日、9月2日、10月7日、11月12日、12月18日、1月24日、2月17日）

(オ) 第51回川崎市保育まつり（対面・YouTube配信）

対面 7回 参加園数 312園 参加者総数 5,101名（11月11日、11月13日、11月19日、11月20日、11月26日、11月29日、1月29日）

動画配信（再生回数） 231回 市内458園

各区打合せ 7回（9月25日、9月30日、10月1日[午前]、10月1日[午後]、10月2日[午前]、10月2日[午後]、10月4日）

(カ) 第42回川崎市保育研究大会 1回（11月7日） 参加者数203名

(キ) 全国・関東ブロック等保育組織関係参加会議等

a 全国保育協議会協議員総会 2回（6月3日、2月28日）

b 全国保育組織正副会長会議 1回（12月3日）

c 第67回全国保育研究大会 1回（10月17日～10月18日）

d 関東ブロック保育協議会会長会 4回（5月27日、9月13日、9月20日、3月4日）

e 第64回関東ブロック保育研究大会 1回（7月4日～7月5日）

f 関東ブロック保育事業連絡協議会 1回（9月20日）

g 関東ブロック保育協議会「保育士の専門性を高める研修会」 1回（3月4日～3月6日）

(ク) その他（全保協ニュースや関係各種団体の研修会開催情報、制度情報等をメール配信）

オ 老人福祉施設協議会

(ア) 施設長会 6回（4月17日、6月19日、8月28日、10月16日、12月18日、2月19日）

(イ) 正副会長等会議 6回（4月5日、6月6日、8月1日、10月2日、12月2日、2月5日）

(ウ) 災害プロジェクト委員会 5回（5月27日、7月1日、9月4日、11月6日、1月21日）

情報伝達・物資移送訓練 1回（9月1日）※台風接近のため中止

横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会災害対策プロジェクトとの意見交換会 1回（9月18日）

災害に関する研修会 1回（10月29日）

(エ) 人材プロジェクト委員会 6回（5月15日、7月17日、9月25日、12月3日、1月15日、3月19日）

福祉の仕事説明会 6回（5月17日、7月19日、9月13日、11月12日、1月17日、3月14日）

地元で活躍する企業との交流会 1回（11月27日）

(オ) 関東ブロック・首都圏・神奈川県等老人福祉組織関係参加会議等

a 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会代表者会 3回（4月11日、6月27日、10月3日）

b 第59回関東ブロック老人福祉施設研究総会 1回（10月3日～10月4日）

c 神奈川県社協老人福祉施設協議会総会 2回（6月27日、3月13日）

d 神奈川県社協老人福祉施設協議会委員会 3回（5月21日、9月27日、

- 2月6日)
- e 神奈川県社協老人福祉施設協議会研修会 2回(6月27日、3月13日)
- f 第22回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会 3回(8月7日、10月15日、12月25日)
- g かながわ高齢者福祉研究大会今後のあり方検討会 2回(4月9日、5月21日)
- h 高齢者福祉施設PR委員会 4回(11月8日、12月11日、1月22日、3月3日)
- i 神奈川県社老人福祉施設協議会課題別部会
 - 施設運営に関する部会 1回(1月24日)
 - 人材確保等に関する部会 1回(3月21日)
 - 災害対応プロジェクト会議・研修会 3回(5月17日、9月2日、1月30日)

カ 障害者福祉施設協議会

- (ア) 施設長会 4回(5月22日、7月31日、10月8日、3月19日)
- (イ) 正副会長会議 5回(4月25日、7月19日、9月24日、12月20日、3月11日)
- (ウ) 障害福祉施設関係者等研修会 1回(3月19日)
- (エ) 福祉でつながる地元交流会
 - 対面 7回 参加者321名(10月23日、11月5日、12月6日、12月13日、12月17日、1月20日、2月27日)
 - 各区打合せ 13回(6月20日、6月24日、7月2日、7月8日、7月10日、7月12日、7月18日、10月10日、10月25日、12月6日、12月10日、12月24日、1月14日)

キ 児童・母子福祉施設協議会

- (ア) 総会・施設長会 4回(5月13日、7月8日、10月1日、1月26日)
- (イ) 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会
 - 対面 1回 参加者54名(7月31日)
- (ウ) 職員交流会
 - a 実行委員会 4回(9月3日、9月30日、11月6日、12月10日)
 - b 職員交流会
 - 対面 3回 参加者222名(11月18日、11月25日、12月2日)
- (エ) 研究発表会
 - a 事前発表会 1回 参加者15名(2月13日)
 - b 研究発表会 1回 参加者85名・14件(2月25日)
- (オ) オレンジリボン運動
 - a 実行委員会 5回(5月29日、6月11日、8月26日、10月10日、12月17日)
 - b ランナー・中継担当役員会議 4回(6月11日、8月26日、10月10日、12月17日)
 - c 啓発担当役員会議 4回(6月11日、8月26日、10月10日、12月17日)
 - d オレンジリボンたすきリレー 1回(10月20日)
 - e 啓発活動
 - ・オリジナルチラシ・ポスターの配布
 - ・オリジナルデザイン缶バッジの配布
 - ・川崎市内スポーツチームを通じての広報
 - ・ホームページ、SNSを活用した広報
 - ・他機関と連携した広報啓発
 - ・感謝状贈呈式

- (カ) 勉強会 2回(7月7日、2月8日)

ク 民生委員児童委員部会

- (ア) 部会議 2回(5月29日、3月12日)
- (イ) 代表者会議 5回(5月9日、8月5日、10月7日、3月3日)

(ウ) 研修会 民生委員児童委員部会研修会 1回(1月30日)

ケ 保護司部会

(ア) 部会議 1回(5月23日)

(イ) 代表者会議 3回(4月19日、9月3日、3月14日)

(ウ) 研修会

保護司部会研修会 (12月6日)

八街少年院視察(32名)

コ 障害者団体部会

(ア) 団体部会 4回(5月28日、8月6日、11月26日、2月4日)

(イ) 障害者団体リーダー研修 2回(10月17日、2月14日)

サ ボランティア団体部会

(ア) 部会議 4回(6月6日、8月27日、11月26日、2月25日)

(イ) 研修会(2月25日) こども食堂見学 「ホッとスペース中原」

(2) 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

(3) 障害者の日キャンペーン事業

ア 障害者週間街頭キャンペーン事前準備 11月26日

イ かわさきFM出演 キャンペーン広報 1回 11月25日

ウ 障害者週間啓発用ポスター・パネル掲示

(ア) JR南武線主要5駅構内 11月24日～12月11日

(イ) 総合福祉センター内 12月3日～12月9日

エ 障害者週間街頭キャンペーン 11月30日

川崎駅・武蔵溝の口駅、新百合ヶ丘駅で団体紹介リーフレット入りオリジナルデザイン
ティッシュを配布 4,000個

8 福祉基金運営事業【2,198千円】

【寄附・利息等収入 2,198千円】

(1) 福祉基金の運営

福祉基金運営委員会 2回(11月12日、3月7日)

(2) 令和6年度福祉基金状況

ア 寄付金額総額 200,000円(1件)

(令和5年度 700,000円(2件))

イ 年度末基金残高 331,643,887円

(令和5年度 334,362,481円)

(3) 福祉基金による団体等助成【再掲】 ⇒6-(7)



9 資金貸付事業【2,814千円】

【サービス区分事業活動支出 2,814千円】

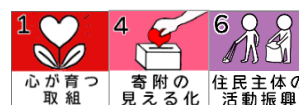
(1) 社会福祉事業振興資金の償還業務(貸付は平成27年度に終了)

償還状況(臨時費2件 計1,968,900円 償還率100%)



(2) 川崎市社会福祉法人経営改善支援事業

- ア 経営改善相談 6 件
 イ 経営健全化計画の作成支援 作成件数なし
 ウ 社会福祉施設運営費の融資 貸付件数なし
 エ 社会福祉法人経営改善支援事業通信の発行 年 4 回
 オ 社会福祉法人会計実務担当者向け研修会の実施
 3 回（8 月 23 日、11 月 11 日、2 月 17 日） 参加者延べ 118 名



10 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

	R6	R5
一般募金全市実績額（円）	76,896,103	78,399,999
年末たすけあい募金全市実績額（円）	49,249,908	50,330,168

(2) 共同募金配分金事業

【共同募金配分金 61,396 千円】

- ア 法人運営事業 【 639 千円】
 イ 調査研究事業 【 1,567 千円】
 ウ 研修事業 【 954 千円】
 エ 企画・広報事業 【 2,832 千円】
 オ 区社協推進事業 【 150 千円】
 カ 部会・委員会事業 【 1,960 千円】
 キ 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働 【 500 千円】
 ク 区社協活動費助成金事業 【51,318 千円】
 ケ 地域生活支援 SOSかわさき事業 【 18 千円】
 コ その他、地域福祉の推進のための事業 【 1,458 千円】
 （ア）児童福祉施設訪問事業
 （イ）高齢者福祉施設等訪問事業
 （ウ）障害者団体等活動助成事業



11 受託事業【137,354 千円】

(1) 福祉パル受託事業（各区 1 箇所 計 7 箇所）

【サービス区分事業活動支出 19,746 千円】

- ア 地域福祉活動の拠点施設である市内 7 区の福祉パルの管理運営を川崎市から受託
 （ア）活動拠点の管理運営による、地域福祉活動やボランティア活動の推進・支援
 a 研修室 年間利用数 3,467 件（全市）
 b ボランティアコーナー 1,768 件（全市）
 （イ）備品の刷新や修繕等に関する、川崎市・区社協との連絡調整

(2) 福祉人材バンク事業

【サービス区分事業活動支出 34,901 千円】

- ア 福祉の仕事の相談と求人票の閲覧、紹介

	R6実績	R5実績
就職件数（件）	33	21

- (ア) 年間有効求人延べ数 5, 6 1 3 件
 (イ) 年間有効求職延べ人数 6 2 3 件
 (ウ) 福祉の仕事に関する相談件数 2, 9 1 1 件

イ 福祉のお仕事相談会の開催

- ・ 1 回目 (6 月 2 8 日、2 9 日) 横浜新都市ホール 4 6 事業者参加

	R6実績	R5実績
来場者数 (人)	504	約1,100

延べ面談数 9 7 件 就労数 0 名

- ・ 2 回目 (2 月 2 2 日) 総合研修センター 2 4 事業者参加 (保育のみ)

	R6実績	R5実績
来場者数 (人)	100	27

延べ面談数 5 0 件 就労数 2 名 選考中 4 名

- ・ ミニ就職相談会 (ハローワーク川崎、ハローワーク川崎北と共催)

(5 月 1 7 日、7 月 1 9 日、9 月 1 3 日、1 1 月 1 2 日、1 月 1 7 日、3 月 1 4 日)

	R6実績	R5実績
就職数 (人)	16	19

ハローワーク川崎

	R6実績	R5実績
来場者数 (人)	113	109
着席相談 (件)	153	-

ハローワーク川崎北

	R6実績	R5実績
来場者数 (人)	106	112
着席相談 (件)	125	-

ウ 福祉人材確保のための研修会の開催

	R6実績	R5実績
各種研修会等の開催 (回)	17	17
参加者数 (延べ人数)	348	403

a 医療技術再確認研修

川崎市立川崎病院の認定看護師による医療研修 全 4 回 7 1 名参加

(前年 全 4 回 9 8 名参加) オンライン開催

b 地域連携★総合交流学習会 in 川崎市立井田病院 全 2 回 1 3 名参加

(前年 全 3 回 1 8 名参加) 会場開催

c 福祉職のための出張講座 (出張依頼ごと) 全 5 回 1 2 2 名参加 (前年 6 回 9 2 名参加)

d 採用担当者向けセミナー 2 回 8 0 名参加 (前年 2 回 8 4 名)

e 医療研修 2 回 2 7 名参加 (前年 2 回 2 9 名)

エ 福祉人材確保・定着事業

a 潜在労働層への働きかけ

- ・ 幸区民祭 (プラザ祭り)

福祉体験を通し、福祉のお仕事紹介を実施

1 0 / 2 0 (日) 疑似体験 参加 約 4 1 組 (親子、友人)

缶バッジづくり 約 1 1 3 名

チラシ・求人情報誌配布

来場数 1 7, 0 0 0 人 (1 9・2 0 2 日間延べ人数)

- ・ 福祉用具展示・相談会 (川崎市総合研修センター)

3 月 8 日 (土) 1 0 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0

「お仕事相談」、缶バッジ作り 参加 4 0 名

来場 2 3 4 名

- b 川崎市立高津高校 定時制生徒自立支援プロジェクト
 生徒個々の課題を改善、克服し自立にむけた就労のサポート体制の仕組みづくり
 (高津高校・かわさき若者サポートステーション・人材バンク)
 生徒、担当教諭とともに施設見学同行し、説明を受け、後日先生から連絡を受けてマッティング実施。就労後の様子を連絡し合い、定着支援を実施。
 令和6年実績【新規】
 アルバイト就労3件：特別養護老人ホーム2件、保育園1件)
 常勤(令和6年4月より)1件：特別養護老人ホーム
 介護体験1件：特別養護老人ホーム
- c 地元企業NEC子会社の「NECライフキャリアサービス」(NECグループの社員を対象としたセカンドキャリアのための就労支援)と協力し、福祉に興味関心のある社員向けのセミナーや、人材バンクに求職相談を勧める仕組みづくりを検討。
 11月25日(月)昼休み
 グループ社員向けのセミナーをライフキャリアサービス職員が実施し、約180名のプ社員が視聴した。
 就労決定1件：市内特別養護老人ホーム
 来所相談1件：福祉職全般
- オ 関係機関及び福祉関係の学校等との連携
 - (ア) かながわ福祉人材センターが主催する福祉のしごとフェア
 (就職相談会・就職ガイダンス)3回(6月、10月、2月)
 - (イ) かながわ福祉人材センター運営委員会 2回
 - (ウ) ハローワーク川崎・ハローワーク川崎北との連携
 求職者向け福祉の仕事説明会 全6回
 - (エ) 川崎市こども未来局との連携
 養成校における保育のお仕事相談及び広報啓発
 横浜こども専門学校 1回 15名参加
 - (オ) 学校連携
 学内就職ガイダンス等への協力 1回 相談件数：27組
- カ こころの健康相談室『ふおーえむ』の実施及びメンタルヘルス研修の開催
 - (ア) メンタルヘルス相談(月2回～3回 不定期 月・金曜日)延べ59件(前年度26件)
 - (イ) メンタルヘルス研修会 2回3日 延べ26名参加(前年度29名)
 - (ウ) 広報紙「ふおーえむのご案内」の発行 2回
- キ 川崎市福祉人材バンク運営委員会の開催 2回(7月19日、2月15日)
 ※オンライン又は会場参加
- ク 広報
 - (ア) 求人情報紙の発行 毎月1回発行
 - (イ) 人材バンク ホームページ <https://kawasaki-jinzaibank.jp/>
 - (ウ) SNS
 - ・Facebook 不定期配信
 - ・Instagram 毎週木曜午後配信
 令和7年2月16日現在フォロワー数：379件
 - (エ) 福祉事業所等の現場職員による魅力発信動画(高齢・障害・保育)
<https://kawasaki-jinzaibank.jp/about-movie/>
 ※行政のサイネージ、アゼリア等の広告媒体用のショート動画作成
 アゼリアヴィジョン：令和7年3月7日から3月13日
 - (オ) こころの健康相談室『ふおーえむ』のPR
 ※川崎駅中央口 河川情報掲示板：令和6年12月27日から約1週間
 - (カ) メールによる情報提供、利用案内等の発信(求職登録者・求人事業者向け送信)
 - (キ) 人材バンクリーフレットの配布
 - (ク) 介護冊子配布
 - (ケ) 川崎市社協広報誌「川崎の社会福祉」

(コ) 川崎市社会福祉協議会事業との連携

- ・総合福祉センター指定管理事業研修（年間26回 約650人参加）での広報
- ・総合研修センター研修開催時にこころの健康相談室『ふぉーえむ』の広報
- ・令和6年度 高津第三地区社会福祉協議会児童福祉部会「星空観察会」参加の約120組の児童保護者に介護冊子配布
- ・令和6年度 高津区社会福祉協議会常任委員会にて委員17名、運営協議会にて委員13名に介護冊子配布

(3) 生活福祉資金貸付事業

【サービス区分事業活動支出 74,908千円】

ア 貸付決定件数 146件

イ 生活福祉資金貸付事業担当者会議 3回（7月9日、10月8日、1月22日）

ウ 特例貸付フォローアップ支援の相談件数 7,007件（延べ）

（ア）電話相談 3,592件

（イ）メール・FAXなど 374件

（ウ）窓口来所での対応 230件

（エ）社協職員の自宅訪問 220件

（オ）その他（状況確認シートの送付、公式LINE） 2,591件

エ 関係機関・団体との会議の実施や情報交換・連携した対応の実施

だいJOBセンター、法テラス、社会保険労務士事務所、川崎市ひきこもり支援センター、フードバンクかわさき等の関係機関と連携するための会議や連携した対応を実施しました。地域理解の促進のために生活困窮のリアルを活用した出前講座を4回、約1,500名に実施しました。

オ 生活相談会の開催 1回、7名参加（2月16日）

カ 関係機関実務者の話を聞く研修会の開催 3回（9月6日、10月30日、1月21日）

キ 新型コロナ特例貸付フォローアップ支援から見える生活困窮のリアルVol.2の発行
6,000部

ク 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

(4) 川崎市要支援家庭見守り体制強化事業

【サービス区分事業活動支出 7,799千円】

川崎区で実施 ⇒川崎区社協該当項目掲載

12 ボランティア活動振興センター事業【11,126千円】

【サービス区分事業活動支出 11,126千円】



(1) 運営委員会の開催

ア 運営委員会 2回（10月29日、1月28日）

(2) 相談・情報提供事業及び調査・研究

ア ボランティアコーディネート業務

（ア）ボランティア募集の依頼 47件（令和5年度 49件）

（イ）ボランティア活動希望への相談・情報提供 56件（令和5年度 59件）

（ウ）ボランティアによる支援 0件（令和5年度 0件）

イ ボランティアグループ等の把握及び情報提供

（ア）ボランティア体験紹介冊子「ボラ・ナビ2025」の発行 2,000部
（公益財団法人かわさき市民活動センターとの共同発行）

ウ ボランティア担当者会議の開催 6回

エ 電話相談実務者研修（3月4日）開催 参加者39名

(3) 広報・啓発

ア ウェブサイト並びに紙媒体等におけるボランティア関連情報の提供

(ア) ホームページの管理

a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 ホームページ若い世代の巻き込み方、新しい活動者の獲得事例、SNSの活用

b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ

(イ) ボランティア関連情報冊子の発行

a 川崎市内ボランティア団体・個人活動紹介カード集の発行 83団体

b 「こどもの居場所活動紹介ガイドブック」の発行 3,000部

(ウ) 「まちのひろばフェス×地ケアフェス」への出店(12月8日)

サンコロビンゴの体験や終活事業説明相談ブースを設置。社協事業の広報、周知を実施した。

イ ボランティア交流室の貸出 526件

(4) ボランティア育成支援

ア ボランティアコーディネーター研修の開催

(ア) 「後継者育成と新しい人材の取り込み方」

(12月4日) 参加者12名

(イ) 「多様なニーズに対応！魅力的な講座作り方」

(9月29日) 参加者15名

イ ボランティア・市民活動団体のためのパワーアップセミナーの開催

(ア) 「発信力アップで組織力アップ」

(9月29日) 参加者15名

(イ) 「学生が参加しやすい市民活動とは？」

(3月16日) 参加者15名

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育推進会議の開催 4回(5月17日、7月5日、10月15日、3月6日)

イ 福祉教育研修の開催(市内小学校・中学校福祉教育担当教諭向け)(8月19日)

参加者 20名

ウ 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2024」の開催

7月20日～8月16日 参加者292名

※一部プログラムを8月22日に実施

(6) 高齢者ふれあい活動支援事業【再掲】 ⇒6-(4)

(7) 災害ボランティア関連

ア 川崎市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練(担当区社協との共催)※9月1日実施予定であったが、台風接近に伴い中止

イ 事前研修会

「能登半島地震における災害ボランティアセンターの運営について」

ウ 川崎市内の企業との協働、連携について情報交換会を実施

「災害ボランティアセンターに関する企業ミーティングin 川崎」

(8) 市内ボランティア活動推進機関との連絡調整及びネットワークの推進

各区社協や公益財団法人かわさき市民活動センターなど関係機関(中間支援組織)との連携を図り、全市におけるボランティア活動の推進、ネットワーク体制の構築を進めた。

(9) 企業・関係団体における助成金情報の提供・支援

市内外の企業・関係団体からの助成金情報をホームページ、SNSや紙媒体において広く周知した。

(10) 全国・関東ブロック・県・市外関係機関との各種連絡調整、各種研修会等への参加

関係機関が主催するボランティア関連の会議や研修会に参加。

13 あんしんセンター事業【160,823千円】



【サービス区分事業活動支出 160,359千円】

【サービス区分施設整備等支出 464千円】

(1) 権利擁護にかかわる相談(日常生活自立支援事業及び川崎市成年後見支援センター事業)

相談件数 10,294件(初回相談 1,164件、継続相談 9,130件)

(※令和5年度相談件数 9,915件／初回相談件1,151件、継続相談8,764件)

(2) 日常生活自立支援事業

ア 相談件数

相談件数 8,331件(初回相談 328件、継続相談 8,003件)

イ サービス契約者数(令和6年度末の継続利用者数)

	R6実績	R5実績
書類預かりサービス利用者数(人)	35	32
金銭管理サービス利用者数(人)	164	143

(3) 契約能力判定審査会の運営

ア ケース検討会議の開催 22回

(ア) 新規利用申込件数 合計 58件

(イ) 継続利用者の処遇 合計 5件

イ 契約能力判定審査会の開催 6回(5月16日、7月11日、9月12日、11月14日、1月16日、3月13日)

(ア) 諮問件数 合計 4件

(イ) 報告件数 合計 66件

(4) 業務監督審査会の運営

ア 業務監督審査会の開催 6回(5月16日、7月11日、9月12日、11月14日、1月16日、3月13日)

(ア) 諮問件数 合計 1件

(イ) 報告件数 合計 220件

(5) 専門員及び生活支援員等研修の実施

ア 生活支援員研修 2回(11月5日、11月8日、1月22日、1月27日)

受講者 延べ72名

イ 専門員研修 4回(9月17日、10月7日、10月9日、10月24日)

受講者 延べ23名

(6) 成年後見事業(法人後見)

ア 法人後見新規受任件数 0件(※令和5年度 2件)

イ 令和6年度末の法人後見受任継続件数 32件(※令和5年度末 39件)

(7) 成年後見制度連絡会の開催

ア 成年後見制度連絡会の開催 2回（6月6日、11月21日）

(8) 川崎市成年後見支援センターの運営

ア 広報事業

- (ア) 市民向けリーフレット及び成年後見制度パンフレットの配布
- (イ) 成年後見制度シンポジウムの開催（2月22日） 参加者 35名
- (ウ) 市民向け研修会 2回（9月12日、3月5日） 受講者 延べ66名
- (エ) 関係機関向け研修 2回（7月29日、11月11日） 受講者 延べ68名
- (オ) 成年後見制度に関する出張講座
43回派遣 延べ852名参加

イ 相談事業

- (ア) 職員による相談件数 1,963件（初回相談836件、継続相談1,127件）
- (イ) 法律・福祉の専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）による専門相談 46件
- (ウ) 支援チームへの法律・福祉の専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）派遣 11件
- (エ) 支援チーム等への申立支援 新規支援数 88件

ウ 成年後見制度利用促進事業

- (ア) 申立書書き方講座（7月29日） 受講者38名
- (イ) 後見人候補者選定支援 「専門職後見人等のご案内」チラシの配布
- (ウ) 市民後見人の養成と支援
 - a 市民後見人推進委員会 3回（7月4日、10月17日、1月30日）
 - b 市民後見人受任調整会議 5回（7月11日、9月19日、11月7日、11月28日、1月30日）
 - c 市民後見人養成研修基礎研修の実施 修了者15名
 - d 市民後見人フォローアップ研修 2回（7月2日、1月24日）
 - e 市民後見人への活動支援 適宜（電話、メール、来所等による支援）
 - f 市民後見人受任状況 受任依頼 6件、受任 6件、終了 3件
令和7年3月末現在16名受任中

エ 後見人支援事業

- (ア) 親族後見人向け研修 2回（8月5日・1月29日） 受講者7名

オ その他

- (ア) 川崎市成年後見制度利用促進協議会 2回（9月6日、3月10日）

(9) 終活支援事業

ア 終活に関する普及啓発

- (ア) 終活に関する相談対応
- (イ) パンフレット・チラシの配布
- (ウ) エンディングノートの配布
- (エ) 終活に関するセミナー等の実施
 - a 全市を対象に終活に関するセミナー 2回
 - b 各区の老人福祉センターにおいてエンディングノート等終活に関するセミナー 7回
- (オ) 事業説明・周知 23回

イ 契約に基づく死後事務等の個別支援

- (ア) 契約件数 25件
- (イ) 解約件数 1件
- (ウ) 相談件数 261件
- (エ) 訪問または面接件数 315件

(10) その他

ア 権利擁護事業の普及啓発

- (ア) 川崎市あんしんセンターパンフレットの配布（随時）

- (イ) 市民及び福祉関係者等研修への権利擁護事業講師派遣
- イ 「日常生活自立支援事業」実施状況調査
 - かながわ福祉サービス運営適正化委員会運営監視委員会による調査
 - (ア) 区実施状況調査 多摩区 10月2日
 - (イ) 実施状況ヒアリング 2月5日
- ウ 区あんしんセンター事業実施調査
 - (ア) アンケート調査(12月～1月に実施)
 - (イ) 現地調査5区実施(1区は次年度初めに実施予定)
- エ 日常生活自立支援事業実施における、区社会福祉協議会への支援
 - (ア) あんしんセンター連絡会議の実施 12回(4月22日、5月20日、6月17日、7月19日、8月19日、9月19日、10月21日、11月19日、12月23日、1月20日、2月17日、3月17日)
 - (イ) 相談に対する助言
- オ 日常生活自立支援事業実施主体連絡会 7月16日
- カ 法人後見実施社協連絡会(神奈川県内の法人後見実施社協と県社協の情報交換会)
 - 2回(7月30日、2月6日)

14 地域生活支援SOSかわさき事業【303千円】

【サービス区分事業活動支出 285千円】

【共同募金配分金 18千円】



	R6実績	R5実績
参加施設数	94施設	70施設
連携ネットワーク会議	5回	4回

(1) 連携ネットワーク事業の開催

ア ネットワーク会議の開催 5回

(幸区：7月19日、中原区：2月27日、高津区：3月7日、宮前区：2月27日、多摩区：1月31日)

イ 相談対応

(2) 地域向けに「公益的取組」の広報啓発

市社協公式SNS、ホームページ等を通じ取組発信

(3) 食糧支援かわさきの実施

ア 食糧支援かわさき実績(令和7年3月31日現在)

(ア) 食糧の提供(企業・施設・市民等) 約34,300品(令和2年度からの累計)

(イ) 食糧支援実績 約4,150世帯(令和2年度からの累計)

(ウ) 日用品の提供 約820品(令和2年度からの累計)

(エ) 日用品支援実績 約560品(令和2年度からの累計)

(オ) 食糧保管拠点 11カ所

(4) ひとり親家庭食糧・物資イベントへの協力

学生団体によるひとり親家庭に向けた取組(主に生活困窮状態におかれている家庭に対する食糧・物資の配布、学習支援を実施するイベント)に協力。

ア 実施日(12月19日)

イ 協力内容：食糧及び日用品の寄付並びに地域や法人・施設関係に対して呼びかけ食糧等運搬、相談コーナーへの職員派遣 等

(5) 川崎市要支援家庭見守り体制強化事業への協力

SOSかわさき事業会員に呼びかけ、食料運搬や寄付協力支援を実施

15 総合研修センター管理経営事業【203, 750千円】

【サービス区分事業活動支出 203, 750千円】



(1) 人材開発・養成研修事業

- ア 新人・新任介護職員向け実践研修 修了者 7名
イ 介護職員実務者研修 (HAPPY&SMILEとの共催) 修了者 8名
ウ 福祉職員向けテーマ別研修 47研修 受講者延べ 1049名
エ 法人役員・管理者向けセミナー 58施設65名 (ハイブリット)
オ 介護福祉士国家試験直前対策講座 1コース 受講者 7名
カ 認知症介護に関する研修
基礎研修 6コース 修了者 61名
実践者研修 2コース 修了者 39名
実践リーダー研修 1コース 修了者 15名
キ 重度訪問介護従業者養成研修 修了者 3名
ク 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 5コース 修了者 248名
実践研修 2コース 修了者 98名
ケ 行動援護従業者養成研修 休止※強度行動障害者養成研修を増回して実施
コ 医療的ケア児コーディネーター養成研修 修了者 20名
サ 相談支援従事者に関する研修 (初任者研修、現任研修) 7コース 修了者331名
シ 同行援護従業者養成研修 一般課程 4コース 修了者 45名
応用研修 1コース 修了者 9名
ス 地域包括支援センター職員向け研修
新任職員研修 3研修、現任研修 3研修 受講者 279名
介護予防ケアマネジメント研修 ※講師の調整がつかず中止

(2) 介護普及啓発事業

福祉用具の展示及び講座の実施

- (ア) 福祉用具・介護用品の常設展示 41品目
(イ) 福祉用具・介護用品に関する啓発事業 234名
(ウ) 福祉関係図書・DVD・福祉啓発教材・視聴覚機材貸出事業の実施

図書及び資料等所有数及び貸出数

a 図書	2,009冊	貸出実績	218冊
b DVD	196本	貸出実績	27本

(エ) 社会福祉関係視聴覚機材等所有数 19

(オ) その他

- ・ホームページの運用
- ・研修センターの認知度向上のためノベルティを作成
- ・研修受付システムの運用を開始

16 居宅介護等事業【191,459千円】

【サービス区分事業活動支出 191,118千円】

【サービス区分施設設備等支出 341千円】

(1) 介護保険法に基づく訪問介護及び第1号訪問事業の実施

利用者数 延べ 9,018人/年
サービス提供時間 71,973時間/年
(令和5年度 76,307時間/年)

(2) 障害者総合支援法に基づく居宅介護事業及び地域生活支援事業の実施

利用者数 延べ 2,761人/年
サービス提供時間 26,188時間/年
(令和5年度 27,558時間/年)

(3) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業の実施

ケアプランの作成 延べ14,179件/年
(令和5年度 13,948件/年)

(4) 自由契約事業（おたっしゅサポート）の実施

利用者数 延べ 1,312人/年
サービス提供時間 3,148時間/年
(令和5年度 2,668時間/年)

(5) 福祉住宅等訪問協力員派遣事業の受託実施

市内28館の福祉住宅・シルバーハウジングに訪問協力員の派遣を行った。

(6) 各種研修の実施

- ア サービス提供責任者研修 2回
- イ 介護支援専門員研修 3回
- ウ かわさき暮らしサポーター養成研修 6回（6月18日、7月17日、9月19日、11月20日、1月22日、3月12日）
- エ ヘルパー現任研修（各事業所において実施）



17 老人いこいの家管理経営事業【10,429千円】

【サービス区分事業活動支出 10,429千円】

「老人いこいの家」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。
(市内48箇所)

(1) 年間利用者数 409,810名

(2) 会議

- ア 老人いこいの家調整担当者会議 3回（6月28日、11月13日、3月5日）



18 老人福祉センター管理経営事業【13,116千円】

【サービス区分事業活動支出 12,852千円】

【サービス区分施設整備等支出 264千円】

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。（市内7箇所）



(1) 年間利用者数 182,061名

(2) 会議 11回

- ア 所長会議 10回(4月25日、5月30日、6月27日、7月10日、8月29日、9月25日、10月31日、11月29日、12月26日、1月24日)
- イ 講座・行事担当者会議 1回(2月18日)

19 公益事業



(1) 川崎市総合福祉センター事業【90,807千円】

【サービス区分事業活動支出 90,807千円】

ア 施設・設備の利用提供事業

(ア) ホール、大会議室、第1・2・3会議室、和室の提供

- a 年間利用件数 3,332件(令和5年度 1,207件)
- b 利用人数 335,878名(令和5年度 14,509名)

イ 地域福祉情報バンク事業

(ア) 総合相談事業(ふくし相談・専門相談)

- a ふくし相談事業 370件(令和5年度 401件)
- b 情報バンク 276件(令和5年度 293件)
- c 専門相談 89件(令和5年度 107件)
- d 総合相談支援システムの円滑な運用

(イ) 地域福祉活動に関する情報の収集・管理・配信(かわさき福祉情報サイトふくみみ)

- a ボランティア・市民活動団体実態調査 460団体を対象に実施
- b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ
- c 地域福祉情報バンク通信の発行(季刊 各7,000部)
- d かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック
- e 情報提供検索用パソコンの利用の貸出
- f ふくみみパンフレット配布 900部
- g 情報バンク広報活動強化のため、広報啓発グッズの作成と窓口等配布

(ウ) 社会福祉専門書・DVDの貸出及び資料の整備・蔵書データベースの運用

- a 図書貸出 1952件 DVD貸出 148件
- b コピー機貸出(一般利用可能) 43人
- c 車いす貸出 8件(19台)
- d 高齢者疑似体験セット貸出 11件(39セット)
- e 妊婦体験セット・抱き人形貸出 3件(16セット)
- f 視聴覚障害者体験セット貸出 5件(31セット)
- g ボッチャボールセット 10件(19セット)

	R6実績	R5実績
新規貸出登録者数(人)	71	62
図書・DVD貸出件数(件)	2,100	1,717

ウ 地域包括ケア推進を目的に、地域住民を対象とした研修事業

(ア) 地域包括ケア推進研修 8テーマ9回実施 受講者延べ200名

(イ) 地域課題研修 6テーマ9回実施 受講者延べ287名

(ウ) 地域活動促進研修 7テーマ9回実施 受講者延べ186名(動画の受講56回)

	R6実績	R5実績
研修件数(件)	27	27
受講者数(人)	673	489

(2) 川崎市高齢者外出支援乗車事業【420, 651千円】

【サービス区分事業活動支出 420, 651千円】

ア 販売実績 延べ128, 157件

年間延べ 交付枚数	年度	R6実績	R5実績
	窓口 枚数(枚)	バス事業者、郵便局 128,157	バス事業者、郵便局 125,588

イ 事業者会議 1回(1月29日)

(3) 地域包括支援センター事業(大師中央・溝口・登戸)【126, 637千円】

【サービス区分事業活動支出 126, 637千円】

ア 総合相談支援業務

総相談件数

(ア) 大師中央 1, 594件

(イ) 溝口 887件

(ウ) 登戸 2, 566件

イ 権利擁護業務

権利擁護関連相談件数

(ア) 大師中央 77件

(イ) 溝口 26件

(ウ) 登戸 94件

ウ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

地域ケア会議の開催

(ア) 大師中央 圏域会議1回(2/19)

個別ケア会議1回(7/9)

(イ) 溝口 圏域会議4回(8/29、9/30、2/26、3/3)

個別ケア会議2回(9/10、12/19)

(ウ) 登戸 圏域会議2回(10/22、2/25)

エ 介護予防ケアマネジメント業務

介護予防プラン作成数

(ア) 大師中央 2, 109件(外部委託分 729件含む)

(イ) 溝口 2, 366件(外部委託分 818件含む)

(ウ) 登戸 3, 407件(外部委託分 854件含む)

オ 川崎市高齢者福祉サービスの利用調整

介護保険サービス外の相談件数

(ア) 大師中央 648件

(イ) 溝口 217件

(ウ) 登戸 1, 100件

(4) 川崎市内の保育士人材確保を目的とした保育士修学資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 73, 895千円】

ア 修学資金	貸付決定人数	51名	貸付交付額	52, 890, 000円
イ 入学準備金	貸付決定人数	32名	貸付決定額	7, 730, 000円
ウ 就職準備金	貸付決定人数	45名	貸付決定額	9, 000, 000円
エ 生活費加算	貸付決定人数	0名	貸付決定額	0円

(5) ひとり親家庭の自立の促進を図ることを目的としたひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 19, 594千円】

ア 入学準備金	貸付決定人数	4名	貸付決定額	2, 000, 000円
イ 就職準備金	貸付決定人数	4名	貸付決定額	800, 000円

ウ 住宅支援資金 貸付決定人数 9名 貸付決定額 2,991,100円

20 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働【500千円】

【共同募金配分金 500千円】

(1) 川崎市民生委員児童委員協議会との協働及び助成事業の実施

21 災害活動関連事業

(1) 災害活動基金の管理

- ア 寄付額 0円
- イ 支出額（災害ボランティアセンター設置に係る経費） 0円
- ウ 令和6年度末残高 33,490,779円
（令和5年度末残高 33,490,779円）



(2) 事業継続計画と職員行動マニュアルの定期的な検証

各部署に設置し、4月に見直しを行った（定期実施）

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

職員用災害時備蓄（80名×3日分以上）

(4) 災害発生時、川崎市との協定に基づく帰宅困難者の一時的な受け入れ

- ア 帰宅困難者の一時的な受け入れ 無し
- イ 帰宅困難者対策用備蓄物資の保管

(5) 被災地支援（令和6年能登半島地震）

「関東ブロック都県・指定都市社会福祉協議会災害時相互支援に関する協定」に基づき、石川県内の災害ボランティアセンターへ職員派遣を行った。（令和6年2月から継続して派遣）

- ア 派遣期間 令和6年2月から12月のうち延べ117日
- イ 派遣職員数 延べ17名

22 その他

(1) 児童福祉施設訪問事業の実施

- ア 児童福祉施設訪問 2回（8月21日、8月22日）
（ア）訪問施設5か所
- ・川崎愛児園
 - ・白山愛児園
 - ・すまいる
 - ・至誠館さくら乳児院
 - ・ソレイユ川崎
- イ プレゼント贈呈
訪問施設以外（4か所）は直接配送

(2) 高齢者福祉施設等訪問事業の実施

- ア 高齢者福祉施設等訪問 1回（9月16日）
（ア）訪問施設3か所（南部・中部・北部より1か所）

- ・ゆとりあ
- ・鷲ヶ峯
- ・あさおの丘

(イ) 市内高齢者個人宅1か所(川崎区)

イ 祝品贈呈

訪問施設以外(61か所)は川崎市の祝品とあわせて直接配送

(3) 常務理事と職員との意見交換会

ア 職員との意見交換会 1回(川崎区:9月24日、10月3日、11月6日 幸区:8月8日 中原区:8月7日、9月19日 高津区:8月28日 宮前区:9月5日、9月18日 多摩区:8月2日、9月3日 麻生区:8月7日、11月7日)

イ 川崎市社協新人・若手職員フォローアップ懇談会 1回(11月13日)

(4) 情報共有の場

市社協・区社協における各事業の方針や方向性の共通理解と、事業に関わる意識の共有を図ると同時に、組織が抱える課題の発掘、解決に向けた検討の場として設置

4回(4月12日、8月30日、2月14日、3月11日)

(5) 災害ボランティア活動事業(能登半島地震復興支援 川崎市青少年復興応援隊)の実施

ア 現地ボランティア活動

高校生:令和6年7月23日~25日(参加者:高校生34名、随行者社協職員4名)

大学生:令和6年9月3日~5日(参加者数:大学生28名 随行者社協職員4名)

被災地の輪島朝市の視察、発災当時の様子と避難所運営についての講話

現地学生と協力し、小学生向けに夏祭りの開催

イ 川崎市長への報告

令和6年11月6日

(高校生6名、大学生5名、社協会長、常務理事、随行者社協職員3名)

活動の紹介、活動を通して市民に伝えたいことを発表、市長との意見交換

ウ 川崎市民向け報告会

令和6年12月26日

(市民来場者154名、高校生20名、大学生18名、随行者社協職員10名)

現地活動報告

パネルディスカッション

(パネリスト 高校生及び大学生各3名、

一般社団法人SSK理事/全国遊び場ネットワーク所属 佐藤広崇

ファシリテーター:日本女子大学 黒岩亮子)

川崎市川崎区社会福祉協議会 令和6年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地区社協活動の支援・援助



地域支え合い活動助成金を交付し、地区社会福祉協議会の活動を支援しました。「つながりを育て安心して暮らせるまちかわさき区」を地区社協が主体となり、地域福祉懇談会、テーマ別の研修会、見守り活動、認知症予防を目的としたサロンなど、それぞれの地域の特性にあわせた独自性のある事業が展開されました。また子どもの食糧支援「みんなのごはん」は、食糧をツールとした地域のつながりの場として、新たな地域活動の一つとして定着しつつあります。

そして広報誌「ウェーブ」では毎号地区社協の活動紹介のページを作り情報発信に努めました。

2 総合相談支援事業



生活相談等、年間を通じて1, 399件の相談を受け、様々な関係機関と連携しながら、必要な情報提供、適切な機関へつなぐ等の支援を行いました。川崎区の外国人の居住者数は他区と比較しても高く、相談においてもコミュニケーションの場面で配慮が必要となることがありました。一つ一つの個別の相談を受けることで、個々の問題ではなく地域課題であることもあります。見えてきた課題から「地域で暮らす外国人との地域の関わり方」をテーマとして研修会を実施しました。

3 現在・未来の地域の人財づくり



川崎区総合防災訓練（2月1日）に参加し、災害ボランティアセンターの運営訓練を行うとともに、運営方法を確認しました。災害時のボランティア活動に関するパネルの展示、チラシ・啓発グッズの配布を通じて、災害ボランティアセンターの働きについて広く周知するとともに災害時のボランティア活動についての理解を深めていただきました。

事業報告の内容

川崎市社会福祉協議会 事業費【91,991千円】

【サービス区分事業活動支出	81,723千円】
【サービス区分施設整備等支出	133千円】
【共同募金配分金	10,135千円】

1 川崎市社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 3回（5月24日、9月19日、2月17日）
- イ 運営協議会の開催 2回（5月27日、2月26日）



(2) 令和6年度会員及び賛助会員数

	R6実績	R5実績
会員数	149	150
賛助会員数	3,333	3,319

(3) 種別会議

種別会員（6・9・10・11種）合同会議の開催（3月18日）

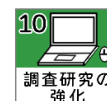
(4) 寄付金品の受け入れ

合計 2,594,682円

2 調査・研究事業

(1) 第6期地域福祉活動計画の進行・管理

川崎市社会福祉協議会との合併により第6期地域福祉活動計画策定は川崎市社会福祉協議会の計画の中に各区の重点取組・特色ある事業の紹介のページとして組み込み、計画の進行について単年度ごとの評価を通し確認をしています。



(2) 福祉ニーズ調査・検討

- ア 要支援家庭見守り体制強化事業におけるヒヤリングの実施
- イ 総合相談事業におけるニーズ検討
- ウ いこいの家における満足度調査の実施

3 研修事業

(1) 役員研修会の開催

- ア 2月7日 テーマ「地域で暮らす外国人との地域のかかわり方」参加33名

(2) 関係機関が開催する研修会への参加



4 企画・広報事業

(1) 令和6年度 福祉まつり・川崎市社会福祉大会の開催

11月16日 参加者延べ842名



(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「ウェーブ」の発行

- ア 広報紙「ウェーブ」年3回 118号(41,000部)、119号(41,000部)、
120号(41,000部)発行
イ リーフレット 1,500部発行

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

- ア ホームページでの情報発信
川崎区社会福祉協議会 ホームページ (<https://www.kawasakiku-shakyo.jp/>)



5 地域福祉活動事業

(1) こども食堂情報交換会のほか、こども食堂を含めたこどもの居場所づくりに関する支援の実施

- ア 相談対応 8件

(2) 保育物品の貸出

- ア 保育物品の貸出 66件

(3) 地域福祉関連の情報提供・支援

- ア ホームページの運用

(4) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

- ア キャビネットの貸出し 14団体

(5) 車いすの貸出

- ア 区民への車いす無料貸出 523件

(6) 福祉用具の再利用

- ア 譲ります 9件、譲ってください 3件、成約 1件

(7) 総合相談（ふくし相談）事業

- ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化 相談件数 1,399件

(8) 要支援家庭見守り体制強化事業

行政の関係機関や川崎市社協が行う「地域生活支援SOSかわさき事業」と連携し、十分に食事のとれているかが不安な家庭等の子どもに食糧支援を行いました。また、地域で行われているフードパントリーや子ども食堂等の活動に協力しました。

支援世帯数 185世帯

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

- ア 区内地区社協への助成 計9,973,960円



(2) 社会を明るくする運動への助成

- ア 2件 20,000円

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ふれあい活動団体数 37団体(会食会、配食サービス、ミニデイサービス)
助成総額 5,631,922円

7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会相互の情報交換・連絡調整の支援

(2) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

ア 地区社協会長連絡会 3回（5月27日、9月19日、3月14日）

(3) 関係機関が開催する連絡会議等への出席



8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

ア 年末支援金配布 389世帯 計1,945,000円

(2) 障がい者福祉啓発事業

ア 各種事業での啓発活動の実施

(3) 子育て支援事業

ア 子育てグループに助成金配布 9団体 計231,000円

(4) ボランティア・当事者団体への活動助成

ア ボランティア・当事者団体へ助成金配布 27団体 計1,853,448円



9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

ア 研修室 438件、ボランティアコーナー 11件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

ア 印刷機 105件、コピー機 60件

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示



10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 通常貸付決定件数 48件



11 ボランティア活動振興事業

(1) 川崎市ボランティアセンター運営委員会の開催

ア 運営委員会 4回（6月7日、8月29日、11月1日、1月29日）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 58件

イ ボランティア募集の依頼 21件

(3) ボランティア情報誌「いっぽ」の発行等、広報活動の実施

ア 広報紙「ウェーブ」へ合併し、紙面の1面として年3回発行



(4) 各種講座・セミナーの開催

- ア 令和6年度夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2024」の開催
オリエンテーション：7月20日
選択プログラム体験：7月21日～8月16日
- イ ボランティア基礎講座の開催（10月29日）
- ウ 災害ボランティア講座（2月8日）

(5) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育に関する相談 29件
- イ 福祉教育情報交流会「地域課題から福祉教育と地域活動とのかかわりを考える」の開催（7月5日）

(6) ボランティア・市民活動団体・関係機関との連携



12 あんしんセンター事業

区内に在住する認知症高齢者、身体障害者、知的障害者、精神障害者等が、地域の中で安心して自立した生活を送ることができるよう、関係機関と連携を図りながら日常生活自立支援事業を実施しました。また、令和3年7月に開設された川崎市成年後見支援センターの相談窓口として、成年後見制度の利用に向けた相談、支援を行うとともに、地域への広報活動を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

- ア 相談件数 2,326件（初回相談55件、継続相談2,271件）
（※令和5年度相談件数 2,604件／初回相談44件、継続相談2,560件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

- ア 相談件数 320件（初回相談83件、継続相談237件）
（※令和5年度相談件数 338件／初回相談77件、継続相談261件）

13 老人いこいの家運営等事業



(1) ミニデイケアサービス事業

- ア 開催数 11回 利用人数 237人

(2) 夜間・休日等施設開放事業

- ア 開催数 14回 利用人数 357人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

- ア 利用人数 計81,238人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

- ア 運営委員会 9回
- イ 運営委員長会議 1回（3月14日）

1 4 災害活動関連事業



(1) 川崎区総合防災訓練への参加

ア 2月1日 川崎区総合防災訓練にて普及啓発活動

(2) 災害発生時に必要な物品等の整備

ア 災害備蓄品(水)の購入

(3) 災害時に必要なボランティアの基本的知識・技術を学ぶ講座の開催

ア 災害ボランティア講座(2月8日)

1 5 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。



(1) 神奈川県共同募金会川崎区支会への協力

ア 募金実績 22,414,071円 達成率 74.7%

(2) 川崎区民生委員児童委員協議会

川崎区民児協の事務局運営を行い、研修会や各種会議の開催、広報啓発運動等を実施しました。

1 6 その他



(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

老人福祉センターとの連携など川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力しました。

川崎市幸区社会福祉協議会 令和6年度 事業報告

◆重点事業◆

1 住民交流活動拠点の円滑な運営



区内3カ所の陽だまりの円滑な運営により、「誰もが顔見知りになれる」交流の場、地域の居場所づくりに取り組みました。

各種講座、季節のイベントを開催し多くの方に知ってもらおうきっかけとしました。

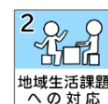
2 福祉教育への取り組み強化



福祉を理解し、身近に感じることで地域福祉に目を向ける機会が増えるよう、地域ぐるみの福祉を推進しました。

学校で行う福祉教育の場において、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、地域包括支援センターなど地域の団体に協力してもらい、地域への興味関心に繋がられるように努めました。

3 ふくし相談事業の実施体制の整備



いこいの家、陽だまりなどの拠点においても、「ふくし相談窓口」の看板を設置し、あらゆる生活上の相談を受け、社協の持つネットワークと関連付けて解決につながるよう対応しました。

4 安定財源確保と啓発強化



住民に社協活動を理解してもらうための広報啓発活動に積極的に取り組みました。賛助会費募集のチラシを刷新、使い道をわかりやすく広報することに力を入れました。

また「幸区社会福祉協議会」の名前の入ったベスト、ビブスを新たに作成し、職員やボランティアが地域で活動するときに着用しました。共同募金会の名前の入った上着は、さいわい健康福祉プラザ内のすべての職員が着用し啓発に努めました。

5 災害ボランティアセンター



幸区総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの啓発活動を行いました。また、大規模大害に備え地域住民を対象にした「災害ボランティアセンター」の研修を開催しました。

事業報告の内容

幸区社会福祉協議会 事業費【83,500千円】

【サービス区分事業活動支出 69,186千円】

【サービス区分施設整備等支出 127千円】

【共同募金配分金 14,187千円】

1 幸区社会福祉協議会運営事業



(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 4回（5月25日、6月1日、9月6日、2月28日）

(2) 各種委員会の開催

ア 機関紙編集委員会 4回（6月21日、9月17日、12月17日、3月11日）

イ 機関紙編集小委員会 4回（4月17日、7月16日、10月22日、1月20日）

ウ ボランティア運営委員会 2回（6月14日、3月10日）

エ 年末たすけあい配分委員会 2回（6月24日、12月10日）

(3) 自主財源の確保

寄附金品の受入れ寄附金 延17件 3,417,214円／寄附品 延11件）

(4) 会員の増強、賛助会員・協賛会員の募集

令和6年度会員

	R6実績	R5実績
正会員数	106	108
賛助会員数	4,260	4,519

(5) 社会福祉士相談援助実習の受け入れ

社会福祉士相談援助実習 1名

2 調査・研究事業



(1) 「第6期地域福祉活動計画」に沿った取り組みの実施

第6期地域福祉計画に基づき事業を実施した。

(2) 次期地域福祉活動計画策定に向けた市社協・区社協間での調整

(3) 安定した事業運営のための財源確保及び組織体制の検討

令和4年度に検討した積算方法に基づき助成金等の配分を行った。

3 研修事業



(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

地区社協役員等を対象とした研修会の開催 1回（3月10日）

4 企画・広報事業



- (1) 川崎市幸区社会福祉大会の開催
区内で社会福祉に功労のあった方へ表彰状・感謝状の贈呈（9月26日）
- (2) 広報紙「幸区の社会福祉」の発行
機関紙「幸区の社会福祉」 年4回、各55,000部発行 回覧または全戸配付
- (3) 「幸区社協通信」の発行
情報紙「幸区社協通信」の発行 月1回、550部発行
- (4) 区社協ホームページでの情報提供の充実強化
ホームページでの情報発信
幸区社会福祉協議会 ホームページ (<http://www.saiwaiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業



- (1) 地区社協との連携
地区社協の定例会等に地域担当職員が出席し情報の共有を図った。また、活動への協力、支援を行った。
- (2) 子育て支援事業や会食会等への支援
地区社協等が実施している事業に対し共同募金を財源とした支援を実施。
- (3) 地区社協連絡会議の開催
地区社協会長連絡会 1回（6月24日）
- (4) 住民活動交流拠点（陽だまり3か所）の運営
小倉の駅舎陽だまり、塚越の陽だまり、河原町の陽だまりの3か所について、各運営委員会と協力し運営。
- (5) シニア向けいきがづくり・介護予防事業の実施
河原町の陽だまりにおいて、委託を受け事業を実施。健康講座12回、終活講座12回、スマホ・PC相談会36回、スマホの使い方講座11回、居場所づくり事業13回
- (6) 住民主体による要支援者等支援事業の実施
河原町の陽だまり、小倉の駅舎陽だまりにおいて介護予防に資する居場所の提供、講座の開催などを実施。
- (7) 総合相談（ふくし相談）事業の体制整備
福祉パルのほか、老人いきいの家や陽だまり等の拠点において、利用者からの相談の聞き取りと関係機関等の情報を提供。
ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化
相談件数 508件
- (8) 相談を通じた住民の福祉ニーズの把握
年間総相談件数 763件
- (9) 車いすの貸出事業の実施
区民への車いす無料貸出 306件
学校への貸出 5件

(10) 高齢者疑似体験グッズ等の福祉用具の貸し出し

- ア 学校への貸出 6件
- イ その他地域団体への貸出 6件

(11) 福祉用具のリサイクルに関する取り組み

- ア 譲りたい要望 5件
- イ 譲ってほしい要望 0件
- ウ 譲渡成立件数 0件

(12) 障害者関係等団体との協働

幸区精神保健福祉連絡会に参画し、メンタルヘルス講座を2度開催

(13) 区内障害者施設関係者との情報交換の実施

川崎市幸区社会福祉大会、プラザ祭りの活動紹介についての打合せ及び情報交換を実施

(14) 子育て支援に関する啓発事業

- ア 広報紙等による子育て支援に関する情報提供に協力
- イ 幸区こども総合支援ネットワーク会議に参画しこども情報ネットさいわいの編集、発行に協力（52号、53号、54号を発行）

(15) 「みんなで子育てフェアさいわい」への参加・協力

- ア 部会出席 4回（7月12日、8月22日、11月18日、1月28日）
- イ みんなで子育てフェアさいわい
12月22日 幸区社会福祉協議会の展示ブースを設けた

(16) プラザ祭りの開催

さいわい健康福祉プラザにおいて、老人福祉センター、さいわい訪問介護支援事業所、こども文化センター、幸区民生委員児童委員協議会、幸区保護司会と協働でプラザ祭りを実施。共催団体の作品や活動を紹介する展示や、工作や各種体験ができるコーナー等を設置し開催した。（10月19日・20日）

(17) 区内の生活困窮者支援の一環として食料や日用品の配布を実施

食料支援かわさきの拠点として 25件対応
学生向けの食料支援を実施（窓口での対応 10件）

(18) 幸区ボッチャ大会の開催

区内の関係団体と共催し、第3回幸区ボッチャ大会を開催。6歳から94歳までの64チーム192人が参加（11月24日）

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

地域福祉活動費 計5,189,600円

(2) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

会食活動に助成	20団体	計	2,338,586円
ミニデイサービス活動に助成	2団体	計	340,700円

(3) 幸区民生委員児童委員協議会への助成

幸区民児協育成費 計160,000円



(4) 社会を明るくする運動等への助成

社会を明るくする運動	50,000円
幸区民祭協賛	50,000円
幸区ボッチャ大会への協賛	50,000円

7 共同募金事業



(1) 共同募金会が実施する共同募金運動(年末たすけあい運動含む)に協力

(2) 共同募金配分金を財源とした事業の実施

年末慰問金配布	300世帯・計1,500,000円
年末慰問品配布(お茶)	2,737世帯・計1,714,456円
会食・配食実施団体助成	21団体 計420,000円
子育て支援事業実施団体助成	7団体 計350,000円
当事者団体活動助成	1団体 40,000円
ボランティアグループ活動助成	11団体 計369,000円

8 福祉パル管理運営事業



(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室345件、ボランティアコーナー 169件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

新たに、大型モニターで社協及び関係団体の情報発信を開始。

9 生活福祉資金貸付事業



(1) 生活福祉資金貸付事業

区内貸付決定件数 17件

10 ボランティア活動振興事業



(1) ボランティアセンターの運営

(2) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 2回(6月14日、3月10日)

(3) ボランティア等に関する相談と調整、情報収集と提供

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供	31件(令和5年度)	16件
イ ボランティア募集の依頼	17件(令和5年度)	33件
ウ ボランティアによる支援	12件(令和5年度)	8件

(4) 人材の育成、講座の開催

ア ボランティア講座の開催	1回(2月8日)	参加者 20名
イ 災害ボランティア講座の開催	1回(3月1日)	参加者 25名

(5) ボランティア情報の発信

(6) 交流会の実施

ア ボランティア交流会（3月10日） 参加者43名

(7) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談 10件(小学校 8件)

イ チャレボラ2024 全14プログラム実施、36名参加

(8) ボランティア保険の受付

令和6年度保険加入件数 116件



1.1 あんしんセンター事業

援助が必要な高齢者や障害者が、地域の中で自立した生活を送ることができるよう、関係機関と密に連携を図りながら事業を実施した。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 621件（初回相談53件、継続相談568件）

（※令和5年度相談件数 606件/初回相談44件、継続相談562件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 146件（初回相談79件、継続相談67件）

（※令和5年度相談件数 226件/初回相談75件、継続相談151件）

1.2 老人いこいの家運営等事業



年間利用者数 54, 529名

総合相談窓口 利用者からの聞き取りにより助言や関係機関を案内した。

適切な管理 不良個所の迅速な修繕、管理人による日常的な点検。緊急時対応マニュアル、土砂災害対応マニュアルの見直し。避難訓練の実施。各施設年2回。

教養講座 25講座 年345回開催

入浴事業 入浴事業実施回数 299回

老人いこいの家まつりの開催 各館でいこいの家まつりを実施。

多世代・地域交流事業の実施

- ・いこいの家まつりでは、こども文化センター、わくわくの子どもたちが舞台発表や、まつりのスタッフとして参加。また、囲碁や踊りを活動団体と一緒に行うことで交流した。
- ・近隣保育園、こども文化センター等と体操、ボッチャ、茶話会などを一緒に楽しむ「交流会」を設けたほか、近隣小学校や保育園の訪問を積極的に受け入れ、交流した。
- ・区内全館で「ちょこっと体操広場」を開催し、地域の方の健康増進といこいの家の広報の場とした。

老人福祉センターとの地域交流事業

ボッチャ交流、ウクレレコンサート、日吉いこいの家まつりで交流した。

老人いこいの家運営委員会の開催 20回

（7月9日、11日、19日、23日、25日、8月5日、6日、30日、9月3日、10日、11日、13日、17日、30日、10月1日、12日、11月8日、12月9日、10日、2月21日）

1 3 災害活動関連事業

(1) 災害時におけるボランティアセンターの役割について検討



(2) 幸区総合防災訓練への参加 2回（9月8日、2月9日）

1 4 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会幸区支会への協力

- ア 募金実績 一般募金 12, 320, 772円 達成率 77%
年末たすけあい募金 8, 735, 674円 達成率 80%
- イ 区支会委員会の実施 3回（5月20日、6月24日、1月15日）

(2) 幸区民生委員児童委員協議会

幸区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力。
市社協（施設事業推進課）と協働で「福祉でつながる地元交流会」を実施した。

1 5 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会の事業に協力

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について、市社協と区社協が協働、連携して適正な管理運営を実施。

年間利用者数 35, 273名

相談事業 健康相談 月4回 内科医、整形外科医が交代で実施
生活相談 随時対応（看護師による健康相談・血圧測定実施）

講座 26講座実施

行事 踊ろう会、手仕事の会、スマホ・タブレットなんでも相談会、座ってバレエ、菖蒲湯、春の散策「日本丸メモリアルパークへ行こう」、園芸「緑のカーテン大作戦」、幸区ロバくん倶楽部、七夕飾り、コグニサイズ、バルーンアート体験会、音楽DE脳トレ、杏林大学ボッチャ部との交流会、明治食育セミナー、敬老のつどい、プラザまつり、幸区ボッチャ大会、内科嘱託医による「睡眠のおはなし」、秋の散策「浜離宮恩賜庭園へ行こう」、整形外科嘱託医による「～骨のお話～」、薬剤師による「骨密度」「足指筋力」測定会、柚子湯、クリスマスコンサート（フルート四重奏演奏会）、かぎ編み指導（こ文共催）、新春和楽器演奏会、節分豆まき、終活セミナー「エンディングノートの書き方」

老人いこいの家との地域交流事業

ボッチャ交流、ウクレレコンサート、日吉いこいの家まつり参加

機能回復訓練 24回/年 柔道整復師が担当

(2) さいわい縁むす日事業の受託、実施

日ごろ生活している地域において人と人とのつながりを作るため、地域への関心が薄い層に対して地域活動に参加しやすいきっかけを創出することを目的に実施。

川崎市中原区社会福祉協議会

令和6年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動の推進



地区社協や福祉団体等への活動経費の一部助成を通じて、地域福祉活動や在宅福祉活動を育成支援した。

地域福祉活動拠点（地域における交流促進の場や地区社協等の小地域福祉活動団体の活動場所としての拠点）を新たに地域の中に確保していくことの検討や設置については、地区社協及び地区民児協の役員等を中心に地域における拠点設置の必要性などについてヒアリングによる調査を行った。

地域福祉ケアシステムの構築に向けた行政、関係機関との連携については、行政の主催事業への協力や関係会議への出席などにより連携を図った。

2 ボランティア活動の推進



ボランティアセンター運営委員会を開催して、福祉分野のボランティア活動の振興に取り組んだ。市民のボランティア活動やボランティア団体の育成を支援するため、ボランティア相談による対応をはじめ、ボランティア養成のための養成講座の開催や団体への活動助成などを行った。

広報活動については、ボランティア情報紙「ポポラーレ」を発行し、ホームページやSNSのLINEなども活用するなどして、ボランティアセンター事業の周知やボランティア活動の促進につながる有益な情報の発信に努め、ボランティア活動の推進に取り組んだ。

3 広報啓発活動、組織体制の強化



常任委員会や運営協議会、地区社協会長会議、各委員会を開催し、適切な組織運営を行い、ネットワークの強化に努めました。

また、第6期地域福祉活動計画（令和6年度～8年度）に基づき、『「みんなが主役」、「みんなにわかる」、「みんなでつくる」おたがいさまの心で満ち溢れるなかはらの福祉』を実現するため、計画の方向性に沿って各事業の推進に努めた。

広報啓発活動については、広報紙「社協なかはら」やボランティア情報紙などを発行し、社協事業をはじめ地域の福祉情報やボランティア情報を広く住民に周知するための情報提供や福祉の啓発に取り組んだ。

また、「なかはら福祉健康まつり」や各老人いこいの家における「いこいの家まつり」を開催するなどして、地域の人々の交流やつながり作りの促進に取り組んだ。

4 災害時の対応に向けての取り組みと連携強化



災害発生時に災害ボランティア活動を円滑に推進できるように、災害ボランティアの養成講座を開催するとともに、中原区総合防災訓練に参加して市民への災害ボランティアセンターの周知を図り、中原区防災連絡協議会や中原区二次避難所施設連絡会議などに参加して情報・意見交換を行い連携に努めた。

事業報告の内容

中原区社会福祉協議会 事業費【78,712千円】

【サービス区分事業活動支出 64,612千円】

【サービス区分施設整備等支出 427千円】

【共同募金配分金 13,673千円】

1 中原区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 3回（6月、9月、2月）

イ 運営協議会の開催 2回（6月、2月）

ウ 地区社協会長・地区民児協会長合同会議 1回（7月）



(2) 令和6年度会員及び賛助会員数

	R6実績	R5実績
会員数	117	119
賛助会員数	1,538	1,550

(3) 種別会議

第6種会員種別会議（社会福祉施設）、第9種会員種別会議（障害者等当事者団体）、第10種会員種別会議（ボランティアグループ）、第11種会員種別会議（福祉関係団体・機関）の開催 各1回（2月）、第11種会議は書面表決で開催

(4) 寄付金品の受け入れ

寄附金 10件 合計 2,433,412円

寄託品 2件

2 調査・研究事業

(1) 第6期地域福祉活動計画の円滑な推進

計画に基づいて各事業の推進に努めるとともに、計画の重点目標としている地域福祉活動拠点の設置を検討するため地区社協・地区民児協等にヒアリング調査を行った。



3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

令和6年度市社協地域部会地区社協役員等研修会に参加



4 企画・広報事業

(1) 総合相談（ふくし相談）事業

ア 福祉を中心とした各種相談への対応

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて関係機関・団体と連携して支援に努めた。
地域課で対応した総合相談（ふくし相談） 相談件数 374件



(2) 広報啓発活動

ア 機関紙「社協なかはら」の発行

133号（73,000部）、134号（72,000部）

135号（71,000部）、136号（71,000部）

- イ ホームページの管理運営
中原区社会福祉協議会ホームページ (www.nakaharaku-shakyo.jp)
- ウ なかはら福祉健康まっりの開催
中原区役所庁舎を会場に区内福祉関係団体等が参加して実行委員会形式で「第28回なかはら福祉健康まつり」を令和6年11月17日に開催 来場者数は約1,400人
- エ 中原区民祭への参加
令和6年10月20日 等々力緑地催し物広場で開催
- オ 広報啓発物の作製
中原区役所ガイドマップへの広告掲載
区社協リーフレットの作製(10,000部)
- カ 福祉関係図書・ビデオの貸出し及び閲覧 通年
- キ 会員向け情報紙「なかはらタイムズ」の発行 毎月160部
- ク 中原区社協新春のつどいの開催
令和7年2月14日 宝珍楼向河原店 参加者数73人

5 地域福祉活動事業



(1) 地区社協活動への支援

事務的な支援や情報提供、助成金等により支援を行った。

(2) 小地域福祉活動の推進

情報提供や助成金等により支援を行った。

(3) 子育て支援の推進

乳児と母親を対象にした「親子de楽しむベビーマッサージとヨガ」を開催した。

(4) 福祉教育の推進

- ア 学校、企業、地域における福祉教育の推進
- イ 福祉教育に関する相談への対応及び連絡調整、講師等の調整や派遣、機器・機材等の貸出し
相談校・団体数 13件(小学校7校、中学校2校、高校1校、その他3団体)
対応件数 34件(相談1件について複数対応あり)
高齢者疑似体験グッズ等の貸出し 10件

(5) 福祉当事者団体への支援

情報提供や活動費助成などにより支援した。

(6) 地域包括ケアシステム構築に向けた連携と地域支援

構築に向けて中原区役所や地区社協等との連携に努めた。
地域福祉活動拠点における居場所づくりの推進について、地区社協・地区民児協の役員等についてヒアリング調査を行った。
地域と高齢者等をつなぐ居場所づくりの活動の担い手を育成することを目的に、カフェボランティア養成講座を開催した。

(7) 印刷機等の機器・機材の貸出し

- ア 福祉活動を目的とする印刷等のために貸出しを行った。 通年
- イ 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し 19団体

(8) 障害者(児)リフレッシュ事業の実施

区内在住の障害者(児)及びその家族を生きがいづくりや自立支援を目的にコンサートを開催した。

(9) 車いすの貸出し

区民への車いす無料貸出 246件

(10) 福祉用具リサイクル情報の提供

- ア 譲りたい要望 17件
イ 譲ってほしい要望 6件
ウ 譲渡成立件数 10件（昨年度からの要望ケースの成立を含む）

(11) 中原老人福祉センターとの連携・協力

事業の広報周知などで連携・協力した。



6 団体等助成事業

(1) 地区社協育成交付金【共募】 5地区社協 計 538,027円

(2) 地区社協活動費の助成【共募】 5地区社協 計 4,044,269円

(3) 地区社協地域福祉活動費の助成【賛助会費】 5地区社協 計 2,437,400円

(4) 高齢者ふれあい活動支援事業補助金の交付

会食活動に助成 10団体 計 1,374,000円

(5) 区社協会員のボランティア・当事者団体等への助成【共募】

区社協第9種・10種会員 13団体 計 510,000円

(6) 協賛事業への助成【共募】

- ア 中原区社会を明るくする運動 50,000円
イ 中原スポーツまつり 10,000円
ウ なかはらランニングフェスタ 20,000円

(7) ボランティア銀行なかはら福祉活動助成

地域福祉活動を自主運営で行っている当事者・ボランティアへ公募及び申請方式で行い、ボランティア銀行なかはら運営委員会にて、助成審査を行った。

- ア 会員以外の団体 申請 18団体・交付 18団体 計 420,000円
イ 地区社協、区民児協、地区民児協 申請・交付 1件（区民児協） 55,440円

7 委員会等活動事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会議の開催

地区社協会長・地区民児協会会長合同会議 1回（7月26日）

(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

市・区役所、地域包括支援センター、社会福祉施設・団体等の主催会議に参加した。

(3) 会員への情報提供

会員向け情報紙「なかはらタイムズ」 毎月発行



8 共同募金事業



(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

(2) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末見舞金配布 666世帯 計 3,330,000円

9 福祉パル管理運営事業



(1) 研修室及びボランティアコーナーの貸出し

研修室 374件、ボランティアコーナー 225件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し
通年

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示
社協、行政、関係機関・団体等の広報物 通年

10 生活福祉資金貸付事業



(1) 生活福祉資金貸付事業

通常貸付決定件数 6件

11 ボランティア活動振興事業



(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 3回（5月30日、10月25日、3月4日）

(2) ボランティア依頼及び活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 19件（令和5年度 52件）

イ ボランティア募集の依頼 30件（令和5年度 40件）

(3) ボランティア情報誌の発行等、広報活動の実施

ア 情報紙「ポポラーレ」年4回発行（4月、7月、10月、1月 各1400部）

イ 広報活動

情報紙やボランティア相談等を通じてボランティアセンターを周知した。

また、なかはら福祉健康まつりにてパネル展示によるボランティアセンターのPR活動を行った。

(4) 各種講座・セミナーの開催

ア 区民を対象にしたボランティア養成講座 4講座開催

イ 夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2024」 6プログラム実施

1 2 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 974件 (初回相談36件、継続相談938件)

(※令和5年度相談件数 744件／初回相談29件、継続相談715件)

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 167件 (初回相談67件、継続相談100件)



1 3 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

参加人数 132人 ・ ボランティア 103人

(2) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計67, 956人

(3) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

運営委員会 ごうじ、中丸子、新城、西加瀬、井田 各3回
等々力、丸子多摩川 各2回



1 4 災害活動関連事業

(1) 災害対策・事業関連

ア 防災について関係機関との連携強化

中原区防災連絡協議会等で関係機関と災害時の連携について情報交換を行った。

令和6年度第1回及び第2回中原区総合防災訓練に参加した。

イ 災害ボランティア養成講座 1回開催 (2月13日)



1 5 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会中原区支会

募金実績 21, 775, 278円 達成率 69%

(2) 中原区民生委員児童委員協議会

中原区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力



1 6 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市社協が「地域生活支援SOSかわさき事業」の一環として行っている「食糧支援かわさき」に協力し、食糧を必要としている世帯へ食糧を配分した。

また、地域生活支援SOSかわさき事業連携ネットワーク会議 (中原区会議) を開催した。令和7年2月27日 参加者数 23人

そのほか、中原老人福祉センターとの連携を図り、センターの事業運営に協力した。



川崎市高津区社会福祉協議会

令和6年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域共生社会実現に向けた高齢者、障害者、子ども・子育て世代、生活困窮世帯への支援



高齢者の健康づくりへの支援として、各地域で実施している会食会や、いこいの家における健康体操、ミニデイサービス、教養講座の実施、また、ボッチャや任天堂スイッチスポーツの活用により、高齢者の健康増進に繋がるよう努めました。

また、『認知症バリアフリーのまち高津区』を進める一環として、区社協・地区社協研修において、橘地区社協小宮会長から認知症カフェの立ち上げについて講演をいただき、認知症の方やその家族の方々の通える場の創出支援に取り組むほか、橘地区社協で実施した地域福祉講座における認知症講座において開催支援を行い、認知症の啓発に努めました。

障害者への理解深めるため、区社協・地区社協研修において、日本理化学工業（株）大山社長から知的障害者の雇用について講演をいただき、障害者への理解が進むよう努めました。

また、本会会員である川崎市高津区身体障害者協会、川崎市育成会手をむすぶ親の会高津支部が実施する研修会の開催を支援し、視覚障害者の理解が進むよう努めました。

子ども子育て世代への支援としては、こども・子育て支援事業推進委員会において、健康福祉まつりの中で子育て中の親の友達作りや情報交換の場づくりなど、様々な育児不安の軽減を目的として、親子ヨガを実施しました。

生活困窮者への支援としては、経済面で困窮している世帯について、生活福祉資金貸付制度による資金の貸付と必要な相談支援を行うほか、生活が困窮している小学生以下の子どもがいの世帯へのクリスマスケーキの無料配布事業を実施しました。

2 地域の実組への支援



4つの地区社協が主体的に活動を進められるよう、情報提供・助言、活動費助成など運営支援を行いました。

また、社会福祉法人の専門性や横の繋がりを活かした地域生活支援 SOS かわさき事業と連携し、橘地区および高津地区において地区社協と福祉施設との交流会を開催し、地域及び福祉施設それぞれの課題や取組について意見交換を行い、地域と福祉施設との今後の連携や、施設間の連携が深まるよう推進しました。

3 地域の実手、福祉の実手の創出



近年、地震や台風などの災害が多発し、災害ボランティアセンターが立ち上がる機会があることから、災害時のボランティア活動やボランティアセンターの役割に対する理解を深める研修を開催しました。

また、高津第三地区社協が実施する星空観察会において、東高津小学校4年生とその親、兄弟に対して、福祉人材バンク発行の「介護のシゴト」の冊子を配布し、介護の仕事の啓発に努めました。

事業報告の内容

高津区社会福祉協議会 事業費【85,459千円】

【サービス区分事業活動支出 75,259千円】

【サービス区分施設整備等支出 1,356千円】

【共同募金配分金 8,844千円】



1 高津区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 3回（5月29日、9月25日、2月25日）

イ 運営協議会の開催 2回（5月30日、2月28日）

(2) 地区社協・地区民児協会会長会議

ア 地区社協会長会議の開催 1回（8月20日）

イ 地区社協・地区民児協会会長会議 1回（3月26日）

(3) 会員、賛助会員実績

ア 正会員 122件

イ 賛助会員 2,071件

	R6 実績	R5 実績
正会員数	122	122
賛助会員数	2,071	2,127

(4) 寄附金の受入れ活用

ア 寄託金 29件 6,098,014円

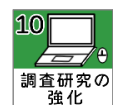
イ 寄託品 2件

	R6 実績	R5 実績
寄託金（件）	29	21
寄託金（円）	6,098,014	1,303,219
寄託品（件）	2	0

2 調査・研究事業

(1) 第6期川崎市社会福祉協議会地域福祉活動計画に基づく高津区社会福祉協議会地域福祉活動計画の推進

市区社協と理念や目標を一つに策定した、令和6年度から3年間の地域福祉活動計画に基づいて事業の推進に努めました。



(2) 総合相談（ふくし相談）事業

ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化

（ア）相談件数 468件

3 研修事業

(1) 区・地区社会福祉協議会研修会の開催

ア 区社協・地区社協研修会の開催 1回（3月12日）



4 企画・広報事業



(1) 広報紙「おあしす」(年2回発行、編集委員会の開催)・情報紙「トピックス」(毎月発行)

- ア 広報紙「おあしす」 年2回、各7,000部発行、編集委員会の開催 6回
(6月17日、7月16日、8月8日、12月4日、1月15日、2月3日)
- イ 情報紙「トピックス」年12回、各550部発行

(2) ホームページの刷新・運用

ホームページで、地域住民に向けて、福祉情報、ボランティア情報、区社協事業の広報を随時行った。

また、ホームページの刷新に向けて、ノクチ基地と内容について協議を進めた。

(3) たかつ区健康福祉まつり・高津区民祭等への参加

- ア たかつ区健康福祉まつり 7月13日
区社協として、午前中にいこいの家対抗ミニボッチャ大会、午後に歌声喫茶を行った。また、競輪選手による競輪体験を行った。
その他、たかつボランティア・当事者連絡会の参加申込の手続きや参加団体の取りまとめを行い、当日の準備などで実行委員会への連携・支援を行った。
- イ 高津区民祭 10月27日
今年度は衆議院選挙の日程と重なったため中止

(4) タウンニュース等による情報発信

福祉敬老大会やクリスマスケーキ配布事業について、タウンニュースに掲載依頼し、広く区民への情報発信を図った。

5 地域福祉活動事業



(1) 地区社会福祉協議会への支援、連携・協働

共同募金配分金を財源とした交付金及び賛助会費の配分金を高津区内の4地区社協へ活動費として助成した。

また、地区社協が地域の高齢者、障害児・者、児童・青少年などを対象として推進している小地域福祉活動や地域づくりの取組(高津第一地区社協「高齢者サロンたかつの縁側」、高津第二地区社協「子育てサロン in しもさくのべ」、高津第三地区社協「人生100年会」、橘地区社協「橘地区内の福祉施設との交流会」など)に対し、情報提供や連絡調整、企画、事務的な協力などにより活動を支援した。

(2) 地域と施設との連携への支援

- ア 橘地区内の福祉施設との交流会 10月29日
- イ 高津第一地区、第二地区、第三地区社協と福祉施設との交流会 3月7日
- ウ 橘第2地区会食会において、障害者グループホームの会場を借りて実施することを支援し、民生委員と障害者施設との交流・ネットワーク作り、会食会に参加する高齢者とグループホーム入所者の交流に繋げた。

(3) 高齢者の健康づくりの支援

- ア 大型モニター及び任天堂スイッチスポーツ導入 いこいの家7館 6月19日
大型モニターは健康体操にも活用
- イ いこいの家における任天堂スイッチ利用者数 年間延べ820名
- ウ いこいの家におけるボッチャ利用者数 年間延べ2,350名
- エ いこいの家対抗ボッチャ大会 2回
6月1日 参加者 24名 てくのかわさき2階ホール

10月12日 参加者 62名 てくのかわさき2階ホール
オ たかつ区健康福祉まつりににおけるミニボッチャ大会
7月13日 参加者63名 高津市民館大会議室

(4) 認知症高齢者及びその家族への支援に向けた普及啓発、居場所づくり

ア 区社協・地区社協研修会における認知症カフェ立ち上げについての講演 3月12日
イ 橘地区社協地域福祉講座「今日から始める認知症予防」開催支援 10月22日
ウ 高津区役所地域みまもり支援センター地域支援課による「9月は世界アルツハイマー月間2024高津区をオレンジに染めよう」啓発への協力

(5) 障害者に対する理解促進と普及啓発

ア 区社協・地区社協研修会における日本理化学工業(株)大山隆久社長による講演「社員から教わったこと ― 障がい者雇用について ―」 3月12日
イ 川崎市高津区身体障害者協会と川崎市育成会手をむすぶ親の会が実施する研修会の開催支援「盲導犬について知ろう! ～視力障害者、ガイドヘルパー、盲導犬協会 それぞれの立場から～」 2月27日

(6) 子ども子育て支援【共募】

ア こども子育て支援事業推進委員会の開催 4回(5月7日、8月20日、11月6日、2月6日)
イ 子育て支援研修会の開催 1月22日
ウ たかつ区健康福祉まつりににおける親子ヨガの実施 7月13日
エ 子育て支援グッズの貸し出し等 31件(個人向け0件、機関・団体向け31件)
オ 川崎市教育委員会主催「校庭で思いっきり遊ぼう!@高津中学校」 2月8日

(7) 生活困窮世帯への支援(クリスマスケーキ配布等)【共募】

年末たすけあい募金と神奈川県タクシー協会からの寄付を基に、区内の生活困窮者世帯で小学生以下のこどもがいる世帯に対して、クリスマスケーキを配布した。(12月23日、12月24日)
103世帯に配布

(8) 新たな地域の担い手、福祉の担い手の創出

ア 区民に対する災害ボランティアセンターについての啓発
高津地区防災訓練に参加 10月26日 上作延小学校
橘地区防災訓練に参加 3月2日 橘小学校
イ 災害ボランティアセンター研修の実施 10月21日 高津パル
ウ 介護、保育の仕事の啓発
(ア) 高津第三地区社協が実施する星空観察会において、東高津小学校4年生とその親、兄弟に対して、福祉人材バンク発行の「介護のシゴト」の冊子を配布し、介護の仕事の啓発を行った。 12月4日
(イ) 常任委員会、運営協議会において、福祉人材バンク発行の「介護のシゴト」の冊子、川崎市発行「高校生夏休み保育士おしごと体験」等チラシ及び、こども家庭庁発行「すくすくワクワクする仕事保育士」のチラシを配布し、介護の仕事と保育士の仕事の啓発を行った。 2月25日、2月28日

(9) 高津区福祉敬老大会の開催(祝品贈呈、功労者・寄付者表彰、実施委員会の開催)

高津市民館を会場をとして、90歳祝の方を会場に招待し開催した。併せて、区内老人クラブの功労者、地域福祉活動の功労者、多額寄付者の方への会長表彰、会長感謝を行った。
ア 高津区福祉敬老大会 9月14日
イ 実施委員会の開催 3回(6月10日、7月24日、9月14日)

(10) 車椅子の貸出

区民及び福祉教育（車いす体験）のための車いす無料貸出 297回

(11) 移送サービス事業の実施（移送車による移送サービス、車両貸出し）

移送サービス利用件数60件（車両貸出は0件）（※令和5年度67件）

(12) ふれあい会食・配食、ミニデイケア実施団体交流事業の開催

高齢者向け食事サービス団体交流会の開催 2月27日

6 団体等助成事業



(1) 共同募金配分金による地区社協交付金の交付

区内4地区社協への助成金 計3,870,000円

(2) 賛助会費の配分による地区社協への地域福祉活動費助成

区内4地区社協への助成金 計2,907,800円

(3) 年末たすけあい募金による小地域福祉活動支援事業助成（審査会の開催）

ボランティア・当事者団体等への助成金 59団体 計1,580,000円

(4) 高齢者ふれあい活動支援事業（ふれあい会食会・配食会、ミニデイケアへの助成）

会食活動に助成 12団体 計1,428,117円

(5) 高津区社会を明るくする運動への助成（推進委員会への参画）

ア 第74回社会を明るくする運動への助成 70,000円

イ 社会を明るくする運動高津区推進委員会（5月27日）

ウ 社会を明るくする運動橘地区推進委員会（6月4日）

(6) 寄附金による地域活動団体への助成（記念事業、地域包括ケアシステム推進に向けた互助活動への助成）

本会会員を対象に特別記念事業への助成 2団体 計90,000円



7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

神奈川県共同募金会川崎市高津区支会委員会並びに年末たすけあい運動実施委員会の開催
2回（5月20日、1月21日）

(2) 年末たすけあい配分事業（民生委員児童委員を通じての年末見舞金の贈呈、配分委員会の開催、その他配分を受けての事業実施）

年末見舞金の配布 555世帯・計1,665,000円

年末たすけあい運動実施委員会（配分委員会）の開催1回（12月6日）

8 福祉パル管理運営事業



(1) 地域福祉活動拠点としての「福祉パルたかつ」の管理運営

「福祉パルたかつ」の適正な管理運営を行った。

(2) 研修室、フリースペース（ボランティアコーナー）の貸出し

研修室A 369件、研修室B 417件、フリースペース 350件

(3) 印刷機・紙折り機等の機材の貸出し

印刷機は予約制により貸出

(4) 福祉広報物の配架・掲示

行政・関係機関・団体等からの広報物や福祉情報の案内等を随時配架・掲示して周知した。

9 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 相談・問合せ件数 813件
イ 区内貸付決定件数 28件



(2) だいJOBセンター等関係機関との連携による支援

民生委員児童委員、行政の関連部署や公共職業安定所、だいJOBセンター（自立支援相談機関）等の各関係機関と連携しながら貸付相談を行い、低所得世帯等の自立促進に向けて支援した。

(3) 特例貸付借受者のフォローアップ支援

区社協の「地域の連携による孤立しない支援」と市社協生活再建支援室の「アウトリーチによる個人の生活を支える支援」により特例貸付借受者に寄り添った支援を展開した。



10 ボランティア活動振興事業

(1) 高津区ボランティア活動振興センター運営委員会・事業企画部会の開催

運営委員会の開催 1回（5月20日）、事業企画部会の開催 8回（5月13日、6月21日、7月5日、8月26日、10月25日、12月25日、2月7日、3月13日）

(2) ボランティア講座の実施

ア 傾聴入門講座の実施（9月26日） 参加者10名
イ 災害ボランティアセンター研修会の実施（10月21日） 参加者15名（再掲）
ウ 高齢者向け食事サービス団体交流会の実施（2月27日） 参加者6名

(3) ボランティアに関する相談対応・情報提供

ア ボランティア相談件数
（ア）ボランティア派遣依頼 9件（令和5年度 17件）
（イ）ボランティア活動希望 22件（令和5年度 15件）
イ ボランティア保険の利用促進

各種行事を実施する団体や、ボランティア活動を行う個人に対し、リスクマネジメントの観点より、保険のメリットについての周知および保険の利用を促した。

(4) 「たかつボランティア情報」の発行

毎月発行する高津区社協情報紙「トピックス」に「たかつボランティア情報」のコーナーを設け、ボランティア関連情報を掲載した。

(5) 寄託金の配分助成

本会会員を対象に特別記念事業への助成 2団体 計90,000円（再掲）

(6) たかつボランティア・当事者連絡会等との連携・支援（交流会の開催等）

第13回たかつボランティアまつりの開催（1月18日）

(7) 福祉教育に関する相談対応・情報提供

- ア 福祉教育に関する相談 2件
- イ 体験用車いすの貸出 3件

(8) 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2024」の実施（川崎市社協・市内他区社協・関係施設等の共催）

- ア 災害ボランティア体験（7月26日）参加者20名
- イ 子どもの外遊びサポートボランティア体験（7月31日）参加者2名
- ウ ニヶ領用水清掃ボランティア体験（8月4日）参加者12名
- エ ミニデイケアで高齢者とのふれあいボランティア体験（8月15日）参加者4名



1.1 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 605件（初回相談32件、継続相談573件）

（※令和5年度相談件数 636件／初回相談28件、継続相談608件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 218件（初回相談93件、継続相談125件）

（※令和5年度相談件数 164件／初回相談72件、継続相談91件）

1.2 老人いこいの家運営等事業



令和6年度から新たに指定管理者として区内7か所（高津・上作延・子母口・末長・梶ヶ谷・東高津・くじ）の老人いこいの家の管理運営を受託

(1) 老人いこいの家利用人数

利用人数 54,841人（団体40,371人、個人14,470人）

（令和5年度 53,053人〔団体36,812人、個人16,241人〕）

(2) 老人いこいの家教養講座

参加人数 418回、4,953人

（令和5年度 403回、4,043人）

(3) いこいの家まつりの実施

高津、上作延、子母口、末長、梶ヶ谷、くじ 参加者623名

(4) ミニデイケアサービス事業

ア 上作延老人いこいの家で実施 参加人数90人、ボランティア人数339人

12回（4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日、3月19日）

イ 末長老人いこいの家で実施 参加者数70人、ボランティア人数188人

12回（4月10日、5月13日、6月13日、7月11日、8月8日、9月12日、10月10日、11月14日、12月12日、1月9日、2月13日、3月13日）

ウ 東高津老人いこいの家で実施 参加者数70人、ボランティア人数222人

11回（4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、9月20日、10月18日、11月15日、12月20日、1月17日、2月21日、3月21日）

※なお、8月は空調故障のため中止

(5) こども文化センター等との連携による多世代交流事業の推進

- ア 高津いこいの家 地域福祉施設ちどりとの合同防災訓練 3月14日
- イ 上作延いこいの家 上作延こども文化センターとのフライングディスク体験会
3月27日
- ウ 子母口いこいの家 子母口こども文化センターとの子母口カフェ・七夕飾り&ミニボッチャ
6月22日
子母口こども文化センターとの子母口カフェ・ひな人形&ミニボッチャ
2月22日
- エ 末長いこいの家 新作小学校2年生との交流 8月5日
末長小学校わくわくプラザ 将棋交流会 11月11日
- オ 梶ヶ谷いこいの家 梶ヶ谷こども文化センターとのミニボッチャ 3月26日
- カ 東高津いこいの家 東高津小学校の児童の社会見学 12月18日
- キ くじいこいの家 くじ保育園お遊戯会練習での交流 1月24日

(6) 老人いこいの家運営委員会の開催

- ア 高津老人いこいの家 3回(6月21日、11月22日、1月31日)
- イ 上作延老人いこいの家 2回(5月9日、6月27日)
- ウ 子母口老人いこいの家 3回(5月17日、9月5日、2月6日)
- エ 末長老人いこいの家 2回(6月25日、9月4日)
- オ 梶ヶ谷老人いこいの家 2回(6月12日、8月7日)
- カ 東高津老人いこいの家 1回(1月29日)
- キ くじ老人いこいの家 3回(7月3日、9月11日、3月25日)

(7) 老人いこいの家管理人研修

老人いこいの家管理人の資質向上を目的として、次年度から各いこいの家へ導入するNI コラボ(ワークフロー)に伴う使用説明及び個人情報を含むメールの取り扱いについて全管理人(研修時)を対象に、管理人研修を実施した。

- ア 任天堂スイッチ体験会 6月26日 参加者7名
- イ NI コラボ導入について、個人情報を含むメールの取り扱い
11月19日、11月27日、11月28日 参加者24名

(8) 夜間・休日等施設開放事業

- ア 梶ヶ谷老人いこいの家で受託 2回 利用者82名

1.3 災害活動関連事業



(1) 区役所の防災訓練などにおける災害ボランティアセンターの周知

高津地区防災訓練(上作延小学校にて実施)、橘地区防災訓練(橘小学校にて実施)に参加し、町会・自治会の方々に対して、災害ボランティアセンターの活動を理解してもらえるように、パネル掲示とチラシ配布を行い、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行った。(再掲)

(2) 災害ボランティアセンター研修会の実施

災害ボランティアセンター研修会の実施 10月21日 高津パル(再掲)

1 4 団体事務

(1) 神奈川県共同募基金会高津区支会団体事務

高津区支会の事務局として、赤い羽根共同募金並びに年末たすけあい募金運動の実施、支会委員会の開催（５月２０日、１月２１日）、募金の取りまとめ、配分決定等を実施

募金実績	一般募金	9, 7 4 4, 5 6 5 円	達成率 6 4. 5 %
	年末たすけあい募金	7, 2 5 0, 2 1 4 円	達成率 6 9. 0 %

(2) 高津区民生委員児童委員協議会団体事務

高津区民児協の事務局として、区民児協の組織運営（総会、理事会、常任理事会、研修会）、連絡調整、その他事業を実施。

1 5 その他

(1) 総合相談支援（関係機関・団体とのネットワークによる支援）

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて行政・地域包括支援センター等の関係機関・団体と連携して支援に努めた。

(2) 行政等との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターとの連携会議を定期的に開催し、情報交換や共同して行う事業について協議した。

また、介護予防情報紙「るるぶ たかつ区版」の制作に協力した。

ア 高津区役所地域みまもり支援センターとの連携会議４回（４月３０日、７月３１日、１０月３１日、３月４日）

(3) 高津区全町内会連合会との高津区賀詞交換会の開催

１月１１日（土） 参加者約５００人

(4) 高齢・障がい・子ども子育て等関係機関・団体との連携

各種関係機関・団体との連携・協力（会議への出席、事業への協力）に努めた。

ア 川崎市高津区身体障害者協会と川崎市育成会手をむすぶ親の会が実施する研修会の開催
支援 ２月２７日（再掲）

イ 社会復帰訓練所 苦情解決報告会への出席 ７月９日

ウ 養護老人ホーム川崎市恵楽園苦情解決第三者委員会への出席 ８月６日

エ たかつ精神保健福祉連絡会への出席 ５月９日、６月１８日、７月１１日、８月８日、
１０月１０日、１１月２１日、１２月１２日、１月１０日、１月３０日

(5) 行政及び福祉関係団体の事業への共催及び後援等の協力・支援

行政及び区内福祉関係団体等からの依頼に基づき、共催及び後援名義の使用を許可した。

(6) 実習生・福祉学習等の受け入れ

社会福祉士実習生１名（法政大学）の受け入れを行った。（８月１９日～９月１２日）

(7) 高津老人福祉・地域交流センターとの連携など川崎市社会福祉協議会の事業への協力

ア 高津老人福祉・地域交流センターとの共同事業として、いこいの家と老人福祉センター
対抗ボッチャ大会の開催 ３月１３日

イ 川崎市保育まつりへの協力 １１月２０日

ウ 市社協施設部会障害者福祉施設協議会と区民生委員児童委員協議会との福祉でつながる
地元交流会への協力 １２月１７日

川崎市宮前区社会福祉協議会

令和6年度 事業報告

◆重点事業◆



1 ささえあう地域づくり

宮前区内にある50を超えるコミュニティカフェの支援強化を行うため、宮前区社協ではカフェ連絡会の事務局として情報交換や研修会等を行ってきた。また、みやまえ福祉フェスティバル等のイベントにカフェ連絡会として参加することで、複数のコミュニティカフェのメンバーが協力する機会を作りました。コミュニティカフェを支援することで、地域の方が気軽に集える居場所づくりを推進しました。

また、ボランティア活動振興センターでは、一芸ボランティアフェスタの初開催や大人のボランティア講座受講者による新たな福祉団体の立ち上げを行いました。

賛助会費や共同募金の寄付の依頼に合わせて、区・地区社協の取り組みのチラシを配布するなど活動の理解を促し、広く地域住民に協力を求めました。



2 「知る」を広げる情報発信の充実

みやまえの福祉編集委員会を開催して地域の方からご意見をいただき、広報誌「みやまえの福祉」を年4回発行しました。掲載内容としては、川崎市社協第6期地域福祉活動計画の説明、心身の健康づくりのための地区社協と取組みやみやまえ福祉フェスティバルの開催のお知らせと報告、障がい者施設の紹介等、区・地区社協の取組や福祉の情報発信を行いました。

また、区社協会員研修では、「LGBTQの理解と支援」について、当事者と支援者に講演いただき社会的マイノリティの方への理解を促し、互いを認めあう意識づくりの働きかけを行いました。



3 地域に見えるネットワークづくり

みやまえ福祉フェスティバルを開催して、各福祉団体のパネル展示や健康元気度チェック、手話体験コーナー、ボランティア相談コーナー、その他福祉団体による様々な催しを実施することで、年齢を問わず地域住民に福祉のネットワークに見える形で伝えることができました。

また、認知症に関する研修会の開催等を支援することにより、認知症の方やその家族が安心して地域生活を過ごせるように、地域住民の認知症患者への理解と支援を促しました。



4 つながりによる地域力の向上

区役所や福祉関係団体が主催する各種会議や研修会に参加して、お互いの業務内容や課題等を共有することにより、それぞれの役割を理解し協力して課題解決を図るためのつながりの強化ができた。

いこいの家の教養講座など地域包括支援センターの協力を得て開催することにより日頃からの顔の見える関係性を構築できた。

福祉でつながる地元交流会withSOSネットワーク会議を開催することで、各種施設と民生委員児童委員との相互理解を促進し、つながりの強化ができた。

令和6年度は各種別会議を開催して区社協各種委員の選出について、協議を行った。

事業報告の内容

宮前区社会福祉協議会 事業費【76,622千円】

【サービス区分事業活動支出 71,995千円】

【共同募金配分金 4,627千円】

1 宮前区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ・ 常任委員会の開催 3回
- ・ 運営協議会の開催 1回

(2) 正副会長会議の開催

- ・ 正副会長会議の開催 1回

(3) 種別会議の開催

- ・ 種別会議の開催 5回

(4) 賛助会員（協賛会員）の募集

社会福祉協議会活動への理解促進と活動の財政基盤を支える賛助会員増強を図るため、地区社会福祉協議会での説明会を開催の上協力を依頼、賛助会員の増加に努め、自主財源確保を図るとともに、加入者に区社協広報誌を送付する等による区社協事業の周知を行った。

(5) 各委員会の開催

ボランティア活動振興センター運営委員会、年末たすけあい運動実施委員会、「みやまへの福祉」編集委員会、みやま福祉フェスティバル実行委員会等の各種委員会を随時開催した。



2 調査・研究事業

(1) 川崎市社会福祉協議会第6期地域福祉活動計画の進行管理

常任委員会で川崎市社会福祉協議会第6期地域福祉活動計画の宮前区版の評価シートについて検討した。

(2) 地域福祉活動拠点の調査・開拓

みやまえカフェ連絡会の役員会（5回）、全体会（3回）開催し、全体会にてアンケート調査を行い、各カフェの活動状況の把握に努めた。



3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修会の開催

9月11日（水）に川崎市社会福祉協議会の新しい取り組みについて、詳しく情報共有する目的で、生活再建支援室の業務についての研修会を福祉パルみやまえ研修室で開催した。

(2) 区社協会員研修会（地域福祉懇談会）の開催

10月30日（水）に、「LGBTQの理解と支援」をテーマに研修会を市民館大会議室で開催した。

(3) 地域住民の主体的な福祉活動促進のための福祉講座の開催

地区社協が輪番で担当し開催していましたが、コロナ禍より実施を見合わせており、取り組み方法や事業について検討していくこととした。



4 企画・広報事業



(1) 第23回 みやまえ福祉フェスティバルの開催

12月1日(日)に市民館で、お子さんからご高齢の方まで幅広い年代層の方にご来場いただき、地域とのつながりの強化や社協活動への理解促進を図る「みやまえ福祉フェスティバル」を開催した。地域福祉に多大なご尽力をいただいた方の功績を称えるための表彰式典および福祉の普及、理解を目的として、天賦の才を二人三脚で開花させた書家金澤翔子さんと母、泰子さんの数々の苦難を乗り越え育まれた母娘の絆を描くドキュメンタリー映画「共に生きる」の上映を行った。

また、各地区社協および区内関係団体等の協力の下、親子コンサート、親子リトミック、パラスポーツの体験ブースや模擬店の出店等を行った。

(2) 広報誌「みやまえの福祉及びボランティア活動情報」の発行 (全4回発行)

令和6年度の主な記載内容としては、「みやまえ福祉フェスティバル」の開催のお知らせと報告を2回にわたって掲載し、地域福祉活動計画の概要や区社協の事業計画・予算、事業報告・決算も2回わたり掲載することで、区社協の理解を促した。

令和6年度の総発行部数は38,500部。主な配布先は各関係機関、町内会・自治会など。

(3) ホームページによる広報活動

ホームページを活用し、区社協の事業や講座の紹介、ボランティア情報の発信等地域の福祉情報を周知することにより、福祉啓発の充実を図った。

(4) 宮前区社会福祉協議会オリジナルキャラクターによるPR活動

本会オリジナルキャラクター宮太郎のお供として活動する馬（馬絹・有馬・東有馬）を「マリーヌ」、鷺（鷺沼）を「ヌーマ」、犬（犬蔵）を「ヌーク」として、区内地名になぞられた名前をつけ、より地域に密着した親しみやすいキャラクターとして、社協活動のPRを行った。

(5) 地域情報誌や他機関の情報サイト等を活用した積極的な区社協事業PR

タウンニュースに情報提供を行うなど、区社協活動のPRを行った。

(6) SNSを活用した情報発信と情報提供の在り方を検討

新しい幅広い世代や対象に向けた情報発信の在り方に関する手段として、SNSの活用方法に関する検討を継続して行った。

5 地域福祉活動事業



(1) 地区社会福祉協議会事業への支援・協力

区社協職員が地区ごとに担当を持ち、地区社協事業への支援を実施した。

(2) 子育て支援事業の実施

① 子育て支援関係者連絡会への参加、協力

宮前区内の子育て支援関係者や子育て当事者グループが連携を図り、安心して子育てできる地域づくり推進のために、子育て支援関係者連絡会に参加し、転入世帯を支援するWELCOME!みやまえキャンペーン、うえるかむクラス、子育てグループ・サロン・赤ちゃん広場等交流会の実施に協力した。

② ふれあい動物コーナー実施

10月26日(土)にみやまえ子育てフェスタにて、未就学児世帯を中心に親子のふれあいを目的とした移動動物園を市民館前広場で実施した。その他の運営についても協力を行った。

③ 研修会の実施

8月28日(水)に市民館で「いじめ」に関する講演会を実施した。

(3) 車いす貸出事業

怪我などに伴い一時的に歩行が困難となった方などを対象に、短期的かつ単発的な使用に限り、無料利用できる車いす貸出事業を実施。貸出のべ台数 217台だった。

保有車両については、自走式、介助式、1台は耐荷重が130kgの車いすを揃えており、希望に応じて貸出した。また、保有する20台のうち、1台を車両老朽化に伴い買い替えを行った。

(4) 買い物支援サービス事業

福祉向上を目的に、宮前区社協会員の社会福祉法人施設（介護老人福祉施設鷺ヶ峯、宮前フレンズ、特別養護老人ホーム富士見プラザ）の協力の下、施設車両を使用し、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、運転・添乗ボランティアの協力を得て運行してきたが、利用者の減に加え、活動できるボランティア減少や事故対応への課題があることから事業内容を見直し、新たに地域移動スーパーの取り組み（市営鷺ヶ峰西住宅自治会、県営野川南台団地自治会）を開始した。

(5) 医療・保健・福祉との連携

①川崎市地域ケア連絡会との連携

相談及び各種サービスを実施している機関が連携し、かつ適切なサービスの提供につながるよう、地域の要援護高齢者の福祉の向上を図ることを目的として設置されている地域ケア連絡会に運営委員として連携した。

②徘徊高齢者SOSネットワークシステムへの協力

徘徊の可能性のある高齢者の情報を事前登録することで、徘徊発生時の情報を関係機関に伝達し、徘徊者発見の手助けを目的とする「みやまえSOSネットワーク」に参加協力をした。

③障害者自立支援協議会との連携

区内障害者施設や関係機関職員で構成し、障害者の自立生活及びその周辺理解について協議し実践をすることを目的としており、その一員として連携を図った。

(6) 総合相談（ふくし相談）事業

ア 地域課で対応している総合相談（ふくし相談）統計化

（ア）相談件数 506件

(7) 在宅介護者支援事業

日頃の悩みや疑問を話し合い、心身のリフレッシュ・仲間作りを目的に開催していたが、令和6年度は諸事情により開催できなかったが、令和7年度は再開を模索している。

6 団体等助成事業

地区社会福祉協議会をはじめ、福祉団体や当事者団体の行う自主的な福祉活動への助成を通じて、福祉活動、ボランティア活動の育成支援を行った。

(1) ふれあい活動支援事業（会食会、配食サービス、デイサービス活動）への助成

(2) 地域の福祉関係団体への活動助成

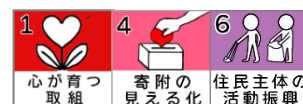
宮前区社会を明るくする運動実施委員会

宮前区子ども会連合会

7 共同募金配分金事業

(1) 共同募金運動に協力

神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会の行う共同募金運動に、各地区社会福祉協議会やボランティア団体、各関係機関等のさまざまな方の協力を得て、一般募金（赤い羽根）、年末たすけあい募金合わせて13,869,981円の実績をあげることができた。



また、令和6年度は、駅頭を使用して募金呼びかけを行う、「街頭募金活動」を10月1日から9日までの計9日間で実施し、全37団体の参加協力をいただき、募金運動（活動）を行った。

（２）年末たすけあい見舞金配分事業

①年末たすけあい見舞金配布

年末たすけあい募金を財源とした、年末たすけあい見舞金に関し、今年度申請いただいた配布対象の方、265名の方に配布を行った。（1名あたり5,000円）

②福祉活動団体育成支援及び活動助成

年末たすけあい運動事業の一環として、宮前区内で福祉サービスを行なう10団体に対し、総額 430,000円の助成金を交付した。

③当会が実施する各種事業において、配分金を活用した。



8 福祉パル管理運営事業

川崎市社会福祉協議会を通じて川崎市より福祉パルみやまへの管理運営業務を受託し、地域福祉活動の拠点施設としての運営を図った。

（１）研修室およびフリースペースの貸し出し

研修室利用件数 350件 4,516人 / フリースペース利用件数266件 3,058人

（２）チラシ・ポスター等の掲示による情報提供

（３）印刷機等地域活動に必要な機器、機材の貸し出し



9 生活福祉資金貸付事務受託事業

神奈川県社会福祉協議会より生活福祉資金制度の相談、貸付業務を受託し、低所得世帯・障害者世帯等の自立支援を図るための、貸付・償還業務を行った。

（１）相談件数

1,916件（特例貸付含む）

（２）新規貸し付け決定数

10件、6,098,000円

（３）償還についての相談

滞納世帯の状況を確認し、今後の援助指導および償還についての相談を行った。



10 ボランティア活動振興事業

宮前区のボランティア活動の振興を図るため、相談、情報提供、連絡調整、啓発講座の開催など人材確保と育成に注力した。

（１）ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

運営委員会 3回開催

（２）ボランティアに関する相談・情報提供の実施

ボランティア相談に関する、ボランティア専門相談員を週2回配置し、ボランティア活動調整及び情報提供を迅速かつ多角的な視点を持って取り組んだ。

ボランティア活動希望49件、ボランティア依頼31件

（３）「宮前・ボランティア活動情報」の発行

広報誌「みやまへの福祉」と一本化し、年4回発行した。ボランティアグループからの仲間募集の掲載依頼の他、地域で活躍しているボランティアグループの紹介、本会ボランティア活動振興センターで行ったボランティアイベント等を掲載し、区内のボランティア活動の啓発に努めた。

(4) 福祉教育事業の推進

- ① 小中学校の福祉教育授業への協力
 - (ア) 区内小学校・中学校の福祉教育授業へ車いす等の貸出
 - (イ) 講師の紹介
- ② 関係施設・機関等の研修への協力
 - (ア) 区内関係施設・機関の研修への車いす等の貸出

(5) 福祉啓発、ボランティア人材発掘を目的とした講座・セミナー等の開催

大人のためのチャレンジボランティアを1月から3月の間で6日間（6講座）開催しました。延べ31名の参加があり、修了者による新ボランティアグループが立ち上がった。

また、初めての試みとして6月11日（火）福祉パルみやまえ研修室にて、一芸ボランティアフェスタを開催した。見学者17名、6団体が参加し、趣味や特技を活かした地域活動、施設等でのレクリエーション活動に向けた活動紹介と事業啓発を行い、実際にフェスタ終了後、ボランティア活動につながった団体もあった。

(6) 夏休みの福祉体験講座「チャレボラ2024」の開催

- ① 福祉の目でまちを点検！車いす介助体験【福祉マップ作り】に7名の参加があった。
- ② 視覚障がい者へのお手伝い！声掛け誘導体験に7名の参加があった。
- ③ Let's enjoy 公園清掃！きれいな公園を私たちの手でと称し、県立東高根森林公園の清掃活動に15名の参加があった。
- ④ 高齢者施設でボランティア体験！SOMPOケア・ラヴィーレ川崎宮前での体験に7名参加があった。

(7) ボランティア活動等保険の取扱い

ボランティア個人またはボランティアグループ・団体などが加入申込人となり、全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約の窓口相談、受付業務を行い、227件保険加入があった。

1 1 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 1,144件（初回相談45件、継続相談1,099件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 248件（初回相談103件、継続相談145件）



1 2 老人いこいの家運営等事業

指定管理者として宮前区内5箇所の老人いこいの家（長寿ケアホーム）の管理・運営を行った。

(1) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会開催数（5館） 14回

(2) 管理人研修会

6回実施、のべ56名参加

(3) 老人いこいの家年間利用者数の状況

年間利用者数（5館） 40,925人

(4) 教養講座、レクリエーションの実施

教養講座実施回数、参加者数（5館）	延べ63回	777人
レクリエーション回数、参加者数（5館）	延べ89回	1,644人



(5) ミニデイケア事業の開催状況（3ヶ所）

参加人数 計 303人 ・ ボランティア数 計 316人

(6) 夜間・休日等施設開放事業（1ヶ所） ※4月のみ実施。5月より市に所管変更

利用回数3回 計 151人



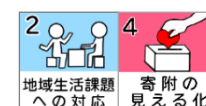
1 3 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティア活動の啓発

宮前区防災フェアへ参加し、災害ボランティアセンターの普及啓発を行った。

(2) 災害対策・事業関連における関係機関との連携強化

防災に注力している「みやまえボランティア・当事者連絡会」について、当団体が行っている防災講座の企画・調整等の協力を行った。



1 4 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会への協力（再掲）

(2) 宮前区民生委員児童委員協議会

(3) みやまえカフェ連絡会「まいCaféみ〜や」

役員会（5回）、全体会（3回）を開催し、全体会では研修と情報交換を行い、アンケート調査では各カフェの活動状況の把握に努めた。

(4) 関係団体の事務協力

1 5 その他

(1) 宮前区賀詞交換会の共催

新型コロナウイルスが5類に移行したことから、久しぶりに飲食を伴う形で実施した。

(2) 関係機関主催の会議、事業への参加、協力

(3) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

(4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業の実施



1 6 老人福祉センター管理経営事業（指定管理事業）

年間利用者数状況

（単位：人）

利用者数		合 計	入浴者数	健康相談		生活相談
団 体	個 人			医 師	保健師等	
7,450	20,460	27,910	2,418	24	129	70

川崎市多摩区社会福祉協議会 令和6年度事業報告

◆重点事業◆

I 災害ボランティアセンターの周知と運営のための検討

(重点事項1 総合相談の充実と適切な支援の実施)

7月に能登町社会福祉協議会へ職員1名を派遣し、被災地での災害ボランティアセンター運営支援を行いました。また、9月には高校生・大学生を対象としたボランティアバスに職員1名を派遣し、現地での状況を視察しました。11月には多摩区総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの役割や運営方法について住民へ説明を行い、認知の促進に努めました。

さらに、民生委員・児童委員を対象とした研修会では、川崎市社会福祉協議会ボランティア活動振興センター職員を講師に招き、能登半島地震における現地の状況や支援活動の報告を受講し、災害時における地域の支え合いの重要性を共有しました。

2月には、同センター職員を再度講師に迎え、多摩区ボランティア運営委員を対象とした「災害ボランティアセンターの設置と役割について」の研修を開催し、具体的な運営手順や体制づくりについて学びました。

これらの取組により、災害時におけるボランティアセンターの設置運営に関する理解促進や地域防災力の向上に努めました。(事業計画12)



II 子育て支援の新たな展開 —「こどもまんなか社会」に向けた取組—

(重点事項2 地域福祉活動の推進と多世代交流の促進)

こどもまんなか応援サポーター宣言を行うために、11月に川崎市こども未来局職員を講師として招き、常任委員や運営協議会委員等の役員を対象とした研修会を開催しました。制度の概要や川崎市における子育て支援施策の現状、今後の方針について説明を受け、地域としての役割や支援の方向性について共有を図りました。(事業計画2)



III 多摩区社会福祉協議会の組織と連携体制の強化 —会員間の連携の強化—

(重点事項3 地域ネットワークの強化と地域福祉活動推進のための財源確保)

地区社会福祉協議会会長連絡協議会を設置し、年3回の会議を開催しました。各地区社協の活動状況の共有や課題の意見交換を行うことで、地区間のつながりを深め、地域福祉活動の活性化を図りました。

また、1月には「地域生活支援SOSかわさき」事業を開催しました。地区社協関係者と福祉施設職員が参加し、地域課題の共有や情報交換を行うことで、地域内の支援ネットワークの強化と地区社協と施設との連携促進に繋がりました。

これらの取組により、会員間の連携体制がより一層強化され、顔の見える関係づくりが進んだ一年となりました。(事業計画2、4、15)





IV 福祉教育の充実

(重点事項4 福祉教育等の推進による新たな地域福祉の担い手の育成)

6月には、登戸地区社会福祉協議会を対象とした「福祉教育地域セミナー」を開催し、地区内の関係者とともに、地域の現状と課題、今後の展望について意見交換を行いました。

また、8月には教職員と福祉学習支援者との交流会を開催し、学校現場と地域の福祉実践者が直接顔を合わせる機会を設け、授業支援の工夫や実践事例の共有を行うなど、教育現場と地域福祉の連携強化を図りました。

さらに、福祉教育ハンドブックのデジタル化・スリム化を進め、より使いやすいツールとして整備し、学校・地域での福祉学習の促進に繋げました。

これらの取組により、地域と学校、支援者が連携し、新たな地域福祉の担い手づくりに向けた基盤づくりを進めることができました。(事業計画：9)



V ボランティア活動の担い手の育成—大学生等へのボランティア活動の啓発—

(重点事項4 福祉教育等の推進による新たな地域福祉の担い手の育成)

地域福祉の担い手育成とボランティア活動の普及啓発を目的に、若年層を中心としたボランティア活動の参加促進に取り組みました。

特に、学生を対象としたボランティア活動の啓発を行うとともに、川崎市総務企画局デジタル化施策推進室が開催しているスマホ相談員養成講座の卒業生にもご協力いただき、高齢者に対してスマホ相談支援を実施しました。

また、チャレボラ2024「スマホ講座の先生になってみよう」では、中学生7名、大学生2名が講師として参加し、高齢者のスマホ操作支援を行い、参加した学生のボランティア活動への関心や意欲の向上に繋がりました。

これらの取組を通じ、若年層が地域福祉活動に関わるきっかけづくりと担い手育成を推進することができました。今後も、様々な世代の参加を促し、地域全体で支え合うしくみづくりに取り組んでまいります。(事業計画：9、11)

事業報告の内容

多摩区社会福祉協議会 事業費【78,990千円】

【サービス区分事業活動支出	71,032千円】
【サービス区分施設整備等支出	173千円】
【共同募金配分金	7,785千円】

1 多摩区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会、正副会長会議の運営

常任委員会 3回（5月27日、8月29日、2月26日）

運営協議会 2回（5月30日、3月6日）

正副会長会議 4回（5月17日、8月20日、11月15日、2月17日）



(2) 一般会員、賛助会員、協賛会員の募集

会員 120件（前年 119件）

賛助会員 2,471件（前年 2,652件）

協賛会員 0件（前年 0件）

(3) 苦情解決の実施と推進

苦情受付件数 0件

2 調査・研究事業

(1) こどもまんなか社会に向けた研修

1回（11月22日）

(2) 種別会議の開催

5種（地区社会福祉協議会）3回（9月17日、12月24日、3月14日）

6種（社会福祉施設）1回（4月22日）

9種（当事者団体）1回（4月17日）

10種（ボランティアグループ）1回（4月17日）



3 企画・広報事業

(1) 広報紙「区社協だより多摩」の発行

発行回数 3回（7月、9月、3月）

(2) ホームページ、フェイスブックの運営

掲載回数 27回

(3) 多摩ふれあいまつり参加による啓発活動

6月16日開催 たまぼらひろば出展 相談者 6名 パネル展示による広報

(4) たまたま子育てまつり参加による啓発活動

9月15日開催 出張おしゃべりサロン「いちにのさん！」 参加 親子30組

(5) 多摩区民祭参加による啓発活動

10月19日開催 ブース来場者 500名



(6) 第17回多摩区社会福祉大会の開催による啓発活動

3月10日開催 来場者 424名



4 地域福祉活動事業

(1) 市社協の「地域生活支援SOSかわさき事業」のネットワーク会議を活用した
地区社協と福祉施設の連携強化

1回(1月31日) 参加 44名(地区社協18名、社会福祉施設26名)

(2) 地区社会福祉協議会活動の支援「地区社会福祉協議会会長連絡協議会」の設置及び開催
3回 ※5種会員会議と同様

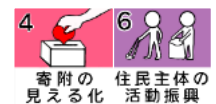
(3) おしゃべりサロン「いちにのさん!」の開催

12回(毎月第4水曜) 参加者合計 285名

(4) 車椅子の貸出

貸出件数 166件(前年 240件)

5 団体等助成事業



(1) 地区社会福祉協議会への助成

育成交付金及び福祉活動費 3,108,000円

賛助会費を原資とした助成金 2,215,270円

(2) 寄附金を財源とした当事者団体、ボランティアグループへの助成

① 活動助成金

ア 第9種会員(障害者等当事者団体) 11件 154,000円

イ 第10種会員(ボランティアグループ) 12件 234,000円

② 行事助成金

5件 82,400円

(3) 高齢者ふれあい活動支援団体への助成

ふれあい活動支援事業助成金 8件 775,653円

高齢者ふれあい活動実施団体を対象とした交流会 1回 参加団体7団体(3月26日)

6 共同募金事業



(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

赤い羽根募金(一般募金)実績額 11,338,472円

年末たすけあい募金実績額 6,675,587円

(2) 共同募金配分事業の実施

① 一般募金配分金額 1,321,636円

赤い羽根一般募金の配分金を財源とした事業の実施

ア 母親クラブ助成金 3件 15,000円

イ 社会を明るくする運動 1件 60,000円

ウ 多摩ふれあいまつり 1件 200,000円

エ たまたま子育てまつり 1件 200,000円

② 年末たすけあい募金配分金額 6,593,564円

年末たすけあい募金の配分金を財源とした事業の実施

- ア 区内在住の福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金の交付
549世帯 2,196,000円（1世帯4,000円）
- イ 福祉車両の貸出事業の実施
貸出件数 19件
- ウ 子育てグループ交流会の実施
1回（3月5日） 参加団体 3団体
- エ 地域福祉貢献事業の起業グループへの助成
申請 0件



7 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室、ボランティアコーナーの貸出

研修室	402件	6,180名（前年 372件 5,510名）
ボランティアコーナー	107件	475名（前年 124件 526名）

(2) 印刷機等の機材、機器の貸出

印刷機（印刷室）貸出323件（前年313件）

8 生活福祉資金貸付事業



(1) 相談・貸付件数

相談・問合せ件数 2,001件（前年1,615件）

(2) 生活福祉資金貸付調査委員会の開催 1回（6月13日）

(3) 申請件数 29件（前年40件）

(4) 貸付決定件数 28件（前年35件）

9 ボランティア活動振興事業



(1) 多摩区ボランティアセンターの運営

多摩区ボランティアセンター運営委員会の開催

4回（4月25日、7月12日、10月11日、2月6日）

(2) ボランティア相談会「たまぼらひろば」の開催

6回（6月16日、7月9日、9月15日、10月8日、1月9日、3月4日）

相談件数

・ボランティアをしたい方の相談 56件

・ボランティア受け入れ希望者の相談 44件

（※電話や来所による相談や、「たまぼらひろば」で受付けた相談件数含む）

(3) ボランティア情報誌「たまぼら」の発行

ボランティア情報誌「たまぼら」の発行

4回（発行月5月、8月、11月、2月）

(4) 大学生と高齢者の交流事業の実施

大学生が高齢者にスマートフォンの操作を教える講座の開催

4回（2月19日、2月21日、2月25日、3月5日）

(5) 各種ボランティア講座の開催

4回 参加 110名 (10月16日、10月23日、10月30日、2月28日)

(6) チャレンジボランティア2024の開催

5回 参加 89名 (7月24日、7月27日、7月31日、8月3日、8月7日)

(7) 福祉教育の推進

① 福祉教育推進委員会

2回 (5月17日、1月31日)

② 福祉教育セミナーグループ会議

4回 (5月17日、7月17日、10月11日、1月21日)

ア 福祉教育地域セミナー (登戸地区社会福祉協議会を対象)

1回 (6月28日) 参加 30名

イ 手話体験講座 (チャレボラとしても開催)

1回 (7月27日) 参加 46名

ウ 福祉教育地域セミナー (よみうりランド花ハウス見学会)

1回 (11月8日) 参加 14名

③ 福祉教育サポートグループ会議

4回 (5月17日、7月10日、11月27日、1月31日)

ア 教職員と福祉学習支援者との交流会の開催

1回 (8月1日)

イ 福祉教育に関する相談支援

相談件数 11件 (小学校10件、中学校1件)

対応件数 37件 (相談1件について複数対応あり)

ウ 福祉教育用福祉用具の貸出 貸出件数16件

(高齢者疑似体験66台、妊婦体験7台、白杖19基)

エ 福祉教育ハンドブックの周知と効果的な活用の検討5件

(6月27日、7月4日、9月20日、12月5日、2月5日)

10 あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業

相談件数 (延べ) 1, 537件 (前年1, 471件)

支援件数 (延べ) 1, 491件 (前年 518件)

(2) 成年後見制度利用促進事業

相談件数 (延べ) 284件 (前年228件)

支援件数 (延べ) 204件 (前年 77件)

出張講座 3件 (前年 3件)



11 老人いこいの家運営事業

(1) 区内7館 (登戸、長尾、菅、錦ヶ丘、枳形、中野島、南菅) 老人いこいの家の管理運営

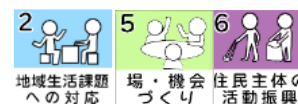
団体利用者数 39, 688名 (前年38, 076件)

利用団体数 4, 145団体 (前年 4, 552件)

個人利用者数 8, 956名 (前年 9, 613件)

(2) いこいの家公開講座の開催

56回



(3) 多世代交流事業の実施

55回

(4) ふくし寄合処たま（登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘）の開催

56回

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催

11回

(6) 管理人研修の開催

4回

(7) 登戸、菅、中野島老人いこいの家でのミニデイケアサービス事業の実施

登戸いこいの家 11回 (利用人数 73名)

菅いこいの家 12回 (利用人数 100名)

中野島いこいの家 11回 (利用人数 77名)

1.2 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティアセンターの役割や具体的活動についての方策の検討

災害ボランティアセンター設置訓練 1回 (2月6日)

(2) 多摩区総合防災訓練での災害ボランティアセンターの周知活動

1回 (11月17日) 枳形中学校 ブース来場者 180名 (チラシ配布数)



1.3 総合相談事業

(1) 相談件数 469件 (前年162件)

(2) 総合相談のための職員のCSW技術の向上

担当者会議への出席 3回 (6月4日、10月18日、1月24日)



1.4 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

2回 (5月21日、3月21日)

(2) 多摩区民生委員児童委員協議会への協力支援

① 常任理事会 12回 (毎月第2木曜)

② 理事会 2回 (5月9日、3月21日)

③ 全体研修会 1回 (9月5日)、理事研修会 1回 (11月14日)

④ 主任児童委員部会 5回 (4月、6月、9月、11月、2月)

⑤ 主任児童委員部会委員研修会 2回 (1月14日、1月27日)

⑥ 多摩ふれあいまつり、たまたま子育てまつり、多摩区民祭に参加

(3) たまわかくさ (多摩区当事者・ボランティア連絡会) への協力支援

① 運営委員会 4回 (4月23日、7月23日、12月10日、3月18日)

② 総会 1回 (4月27日)

③ たまわかくさだよりの発行 2回 (8月、12月)



- ④ 研修会 1回（9月25日）
- ⑤ 勉強会 2回（11月9日、3月8日）



15 その他

（1）川崎市社会福祉協議会の各部署が実施する事業への協力による、地域福祉の推進

- ① 地域生活支援SOSかわさき事業 令和6年度多摩区連携ネットワーク会議（再掲）
1回（1月31日）参加 44名
- ② 福祉でつながる地元交流会 1回（1月13日）参加 39名
（民生委員22名、施設10名、行政1名、市社協3名、区社協3名）

（2）多摩老人福祉センターとの連携による高齢者福祉の推進

出張ふくし寄合処 1回（2月11日）

（3）実習生の受け入れによる福祉を学ぶ場の提供

帝京平成大学 1名
聖マリアンナ医科大学看護専門学校 28名

（4）寄付金品の受け入れと適正な事業配分の実施

金品 12件 1,194,850円
物品 4件

川崎市麻生区社会福祉協議会 令和6年度 事業報告

重点事業

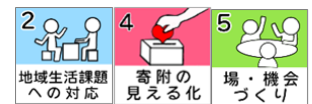
1 “他人ごと” から “自分ごと” そして、“みんなごと” へ ～福祉がより身近になる広報・啓発



広報紙「ほほえみ」を発行し、タウンニュース紙の一面掲載や区内新聞折り込みの活用、また公式LINEアカウントの活用等、広報方法の工夫により区民への福祉情報の発信に努めました。また、事業委員会が実施した講演会や研修、交流会等においても区社協事業を周知しました。

麻生区役所との共催事業として「第35回あさお福祉まつり」を実施しました。支え合いの地域づくりである「地域包括ケアシステム」構築の推進に向け、麻生区の地域福祉活動を多くの区民に周知し、福祉や社協への理解を広めました。

2 住民の困りごとを受け止め、 予防と解決に向けた小地域福祉活動の支援



地区社協の自主的・主体的な活動と運営の充実・発展のため、地区社協や関係機関等との協働事業を支援しました。また、地区社協と連携し、社協事業や小地域福祉活動の財源である賛助会員増強に取り組み、さらに共同募金運動に協力しました。

事業委員会では、地域を支える活動者の学習や交流会等を開催し、参加者の積極的な情報・意見交換のもと、お互いの活動への理解を深める機会になりました。

3 「共に生きる」地域づくり・場づくり ～誰もが参加できるボランティア活動の推進



区内のボランティア活動や当事者活動と連携し、誰もが気軽にボランティア活動に参加できる機会づくりの支援に努めました。ボランティアコーディネート委員による相談活動の実施、さらに区内福祉施設のボランティア受入担当者交流会を開催し、ボランティアの受入方法や関わり方などの必要な知識を、事例等を通じて具体的に学べる場を提供しました。

福祉教育推進では、当事者団体やボランティアグループに協力いただき、講師派遣や体験の受入れ調整等、学校における福祉教育を支援しました。

事業報告の内容

麻生区社会福祉協議会 事業費【78,039千円】

【サービス区分事業活動支出	73,136千円】
【サービス区分施設整備等支出	173千円】
【共同募金配分金	4,730千円】



1 麻生区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、正副会長会議、運営協議会（会員意見交換会）の開催

- ア 常任委員会の開催 5回
(5月31日、8月29日、10月31日、12月11日、2月20日)
- イ 正副会長会議の開催 2回
(5月20日、2月4日)
- ウ 運営協議会（会員意見交換会）の開催
今年度より書面報告とあわせて、運営協議会を兼ねて「区社協会員研修」を開催した。
(11月22日)

(2) 賛助会員募集

2月を賛助会員募集の強化期間とし、町会・自治会等の協力を得て、区社協・地区社協の趣旨や活動に賛同し、支援をしていただける賛助会員の増強に努めました。

賛助会費は、1口1,000円を基本とし、協力をいただきました。

令和6年度募集	賛助会員数	金 額
実績合計	2,350名	5,286,900円
麻生東地区	1,521名	2,360,200円
柿生地区	829名	2,926,700円

(3) 寄託金

令和6年度一般寄附 1,064,120円（寄託品で決算上金銭換算したものを除く）

(4) 寄託品

令和6年度寄託品 なし

(5) 各事業の効果的な連携（総合相談支援）

ボランティア相談、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談の他、福祉にかかわる様々な相談等、支援を必要とする方への総合的な相談支援を区社協の各部署や行政、相談機関と協力連携して対応しました。

総合相談（ふくし相談） 相談件数 529件

2 調査・研究事業

第6期川崎市地域福祉活動計画の推進（市区社協一体策定）

川崎市社会福祉協議会と一体策定した「第6期川崎市地域福祉活動計画」〔計画期間：令和6（2024）年度～令和8（2026）年度〕に基づき、常任委員会において本会における重点的な取組、各事業の進捗状況について報告し、課題等の把握を行いました。





3 研修事業

(1) 区社協会員研修の開催

今年度から社会福祉協議会を取り巻く環境の変化を踏まえた組織づくりや事業企画について考え、実践することを目的として「区社協会員研修」を開催しました。

テーマ「薬物乱用について」(11月22日) 参加者44名

(2) 区社協職員研修の実施

各職員の職制や担当業務に応じた市社協職員研修や外部研修等に参加しました。

4 企画・広報事業



(1) 第35回あさお福祉まつり事業

区内の福祉活動に関わるボランティア・当事者・施設・団体の活動を広く区民に周知し、区民の福祉への理解と関心を高めることを目的に、第35回あさお福祉まつりを麻生区との共催事業として開催しました。地域の「協働」と「参画」を基本とし、第35回あさお福祉まつり実行委員会を組織し、実行委員会と参加団体が主体となる運営を目指して、事前準備から当日の運営までを具体的に役割分担し実施しました。

参加団体数：63団体(前年度 63団体)

来場者数：約5,600人(前年度 約5,500人)

(2) 第18回麻生区社会福祉大会の開催(隔年開催)

地域福祉の発展に貢献していただいた方々の功績を表彰するとともに、区民の誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる「人にやさしいまちづくり」の実現に向けて隔年で開催しています。

大会の企画・運営は、常任委員会にて行い、第2部の福祉啓発映画会は本会広報啓発委員会事業として実施しました。

2月27日 新百合トウェンティワンホール 多目的ホール

(3) 広報啓発委員会の開催

ア 広報啓発委員会 2回(6月19日、2月12日)

イ 広報紙「ほほえみ」の発行

年間3回の発行を再開し、84号は業者委託による区内ポスティング、85号はタウンニュースの紙面に掲載、86号は新聞各社の新聞折り込み配布にて発行しました。

ウ ホームページの管理運営

区社協ホームページにより、区民に向けて、福祉団体のボランティア募集情報、地域の福祉情報、社会福祉協議会の事業などについて、随時発信しました。

エ 「親子・青少年講演会」について

今年度は、開催時期と会場の都合がつかず、実施できませんでした。

オ こどもへの福祉啓発について

実施について検討しましたが、具体的な取り組みには至りませんでした。

カ 「福祉啓発映画会」について

福祉啓発を目的として映画会を開催しました。なお、今年度は麻生区社会福祉大会と同日に開催しました。

キ 麻生区社会福祉協議会紹介パネルの作成

麻生区社会福祉協議会についての紹介パネルを作成し、あさお福祉まつり、麻生区総合防災訓練にて展示し広報を行いました。

ク 公式キャラクターを通した展開について

区社協広報紙やホームページ、各種事業開催時にキューちゃんを掲載しPRしました。

福祉まつりでは「キューちゃんぬりえコンテスト」を実施(ほほえみ第86号参照)し、合計111作品(こども部門78作品、おとな部門33部門)の応募がありました。また、キューちゃんグッズを福祉まつり内で実施したアンケートの景品にし、区社協紹介パネルにも掲載しました。

(4) 地域のイベントへの参加協力

あさお区民まつり 10月13日



5 地域福祉活動事業

(1) 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の推進は、活動の主たる担い手である麻生東地区社協、柿生地区社協の運営を支援し、地区社協による主体的な活動が促進されるように働きかけを行いました。

(2) 関係団体・機関等との連携、各会議等に参加

区役所、福祉施設、教育機関等が主催する各委員会、会議に参加しました。

(3) 車椅子・福祉用具の貸出事業の実施

- ア 車椅子の貸出(件数) 340件
- イ 福祉器具の貸出(件数) 584件

(4) 移送サービス事業の実施

区内在住で、車椅子利用や歩行困難などにより移動が困難な方に対して、外出の機会や社会参加を支援するため、福祉車両「キューちゃん号」による移送サービス事業を実施しました。

本事業は川崎市社会福祉協議会麻生区支部として道路運送法による福祉有償運送登録のうえ実施しています。

- ア 賛助会員数 8名
- イ 運転ボランティア登録数 6名
- ウ 利用件数 64件
- エ 運営委員会の開催
- オ 運転ボランティア定例会の開催
- カ 広報啓発活動の充実(福祉まつりでの車両展示・体験コーナー、麻生警察署内にて運転ボランティア募集チラシ配架)



6 団体等助成事業

(1) 地域福祉活動への助成

- 麻生東地区社協 1,477,140円
- 柿生地区社協 1,873,690円

(2) ボランティアグループ等活動助成事業

地域のボランティアグループや当事者団体の自主的な活動を支援するため、その活動に対して必要経費の一部として助成金を交付しました。

26団体(計758,000円)

(3) 高齢者ふれあい活動支援事業への助成 10団体(1,440,000円)

(4) 社会を明るくする運動への助成 50,000円

(5) ボランティア・当事者連絡会への助成 190,000円

(6) 麻生区交通安全対策協議会への助成 30,000円



7 委員会活動事業

(1) 在宅福祉サービス事業

「みんなでささえあう、暮らしやすいまちづくり」の実現に向け、地域包括ケアシステムの構築を見据えて、地域が抱える生活課題に対して、地域住民が自ら取り組んでいけるよう、地域のつながりを深め、お互いに顔の見える関係を築き、ささえあい、助け合うことができる地域力の向上を目指して事業を実施しました。

- ア 在宅福祉サービス委員会の開催4回（6月27日、9月13日、12月13日、3月18日）
- イ “つながり”を作って心豊かに生きる講演会
（使用会場が衆議院選挙期日前投票により使用不可となったため中止）
- ウ 委員会研修 1回（10月23日）
- エ 懇談会「麻生区のコミュニティ交通について、日常的な移動や外出についての意見交換」
（令和7年2月18日）

(2) 広報啓発事業（再掲）

区民へ地域福祉の広報啓発を図り、福祉活動への積極的な参加を呼びかけました。

(3) 子育て支援事業

子育てにおける悩みや課題に対し、アドバイスをを行う講座や講演会を開催するとともに、地域における子育て中の親・子を支援する体制づくりなどについて、子育て支援委員会で協議・検討を行いました。

- ア 子育て支援委員会の開催
4回（6月14日、9月6日、11月13日、2月28日）
- イ 「ペアレントトレーニング」参加者交流会
1回（7月10日）
- ウ 子育て関連グループ交流会の開催
1回（10月28日）
- エ 「ペアレントトレーニング『見直してみよう～うちの子って…～』」
4回（11月15日、12月20日、1月17日、2月7日）
- オ 子育て支援講演会の開催
1回（2月6日）
- カ あさお子育てフェスタへの参加（パネル展示）
1回（3月20日）

(4) ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。（詳細P8「11 ボランティア活動振興事業」）



8 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会の実施する共同募金運動への協力

(2) 共同募金の配分金事業の実施

ア 年末たすけあい配分事業

年末たすけあい運動により寄せられた募金の配分について、区社協に配分委員会を設置して、支援を必要とする高齢者世帯及び障害者世帯を対象に、申請に基づいて見舞金を配布しました。

配分世帯 387世帯 配分実績額 1,548,000円

イ あさおおもちゃとしょかん運営事業

障害のある子もない子も、ともにおもちゃを通じて遊び、豊かに育つことを目的に運営を行いました。

開館回数 42回

利用者数 766人

運営ボランティア数 延べ316人

次のウ〜コは、財源の一部について共同募金配分金を受けて行いました。

ウ ボランティア・当事者連絡会への支援（活動育成費の交付）（再掲）

エ 助成事業（再掲）

小地域福祉活動の担い手である地区社協に対し、育成交付金として交付し、継続的な支援を行いました。（共同募金配分金から、麻生東地区社協へ 270,000円、柿生地区社協へ430,000円）

オ 区社協運営事業（再掲）

カ 在宅福祉サービス事業（再掲）

キ ボランティア活動振興事業（再掲）

ク 広報啓発事業（再掲）

ケ 子育て支援事業（再掲）

コ 移送サービス事業（再掲）



9 福祉パル管理運営事業

川崎市から受託した活動拠点「福祉パルあさお」の管理運営を行いました。

（1）研修室、フリースペースの貸出

ア 大研修室利用状況	539件（7,199人）	※前年度 519件（7,453人）
イ 小研修室利用状況	233件（1,492人）	※前年度 248件（1,436人）
ウ フリースペース利用状況	640件（2,369人）	※前年度 481件（2,070人）

（2）フリースペースのパネル展示・掲示スペース貸出（件数）

60件（5団体）



10 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯で経済的問題を抱える世帯に対し、各種資金の申込みを受付けるとともに、借受世帯への償還などにかかわる相談支援を行いました。

（1）相談件数 1,183件

（2）新規相談件数 133件

（3）貸付申請件数 14件

（4）事務管理終了

償還完了	教育【5】 総合支援資金【1】 小口【1】	7件
移管	教育【2】	2件



11 ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。

（1）ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

4回（6月25日、8月28日、10月24日、1月31日）

(2) 学生のための夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2024」

(市社協・各区社協等との共催事業) 8回

- ①高齢者施設でボランティア！音楽を通じて高齢者と交流しよう！
8月1日、2日
- ②地域子育て支援センターちよがおかで乳幼児と交流しよう！①
7月23日
- ③地域子育て支援センターちよがおかで乳幼児と交流しよう！②
7月24日
- ④地域子育て支援センターちよがおかで乳幼児と交流しよう！③
7月25日
- ⑤「にんちしょう」ってなあに？！～記憶のツボゲームとロバ君倶楽部～
8月13日
- ⑥「ロバの日」に高齢者のお買い物ツアーに同行しよう！
8月14日
- ⑦保育園でボランティアをしよう！
8月6日
- ⑧作業所でハーブティー（レモングラス）を収穫しよう！
7月30日

(3) ボランティア講座の開催

今年度は、効果的な開催方法について検討しました。令和7年度から「あさお農福サロンプロジェクト（仮称）」と題し、新規事業を開始する予定としました。

(4) ボランティア専門講座（田園調布学園大学主催）への協力

田園調布学園大学が開催するボランティア専門講座の広報について、今年度は要請がなかったため、協力には至りませんでした。

(5) ボランティアイベントの企画・実施

11月10日に行われた「あさお福祉まつり」において、相談窓口担当者ブースに参画し、来場者からの相談を受けるとともに、各機関との連携を深めました。

(6) 災害ボランティアについての取り組みの推進

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

現在、「川崎市社会福祉協議会 災害発生時対応マニュアル」改訂中のため、今年度の開催を見合わせました。

イ 川崎市総合防災訓練（麻生区会場）への参加

災害ボランティアセンターの設置運営訓練および啓発活動に向けて、職員は本部で開催した事前研修にて、ICTを活用した災害ボランティアセンターの運営訓練に参加し、準備を進めてまいりましたが、台風10号の接近に伴い防災訓練が中止となり、参加が出来ませんでした。

事前研修：1回（8月30日）

防災訓練：1回（9月1日）※中止

ウ 麻生区総合防災訓練への参加

災害ボランティアセンターに関するパネルの展示やチラシの配布をし、区民の方に向けて普及啓発を行いました。

1回（12月7日）

(7) 地域住民・ボランティア団体等への情報提供や支援、連携強化

ボランティア活動者やボランティア団体から寄せられた相談に対して、随時情報提供を行いました。ボランティアの募集にあたっては、区内ボランティア団体と連携し、スムーズなボランティア受入につながるよう支援しました。

(8) ボランティアコーディネート委員会の開催

ボランティアコーディネート体制の充実のため、ボランティア活動振興センター運営委員会の中に、「ボランティアコーディネート委員会」を設置し委員会を開催しました。

10回（4月2日、5月7日、6月4日、7月2日、9月3日、10月1日、11月5日、12月3日、2月4日、3月4日）

(9) ボランティア相談コーナーの開設

令和5年12月より再開し、今年度は12回開設いたしました。

12回（毎月第3火曜日）

(10) ボランティア相談事業（来所・電話・相談コーナーを含む）

令和6年度 ボランティアの依頼状況・調整状況

ア ボランティア依頼（ボランティアしてほしい） 35件

イ ボランティア活動希望（ボランティアしたい） 60件

(11) ボランティア受入担当者交流会の開催

ボランティアを受け入れる福祉施設の担当者に向けて、ボランティアの受入方法や関わり方などのボランティアコーディネートをする上で必要な知識を、事例などを通じて具体的に学べる機会とすることを目的に開催しました。

1回（2月18日）

(12) ボランティア受入状況などの現状把握するための取組

ボランティア受入担当者交流会の参加申込書にアンケートを作り、ボランティアの受入状況などの現状を把握する取組を行いました。

(13) 広報紙「ぼらぼら」・情報紙「ぼらぼら広場」の発行

ア 広報紙「ぼらぼら」の発行

広報紙ほほえみの紙面を活用して発行しました。

2回（7月、3月）

イ 情報紙「ぼらぼら広場」の発行

今年度は計6回発行し、ボランティアに関連する情報を掲載することで、ボランティア活動の振興に努めました。

6回（5月、7月、9月、11月、1月、3月）

(14) 福祉教育推進委員会の開催

3回（6月6日、8月7日、2月13日）

(15) 福祉学習申込みに関する相談・紹介・調整

ア 申込件数 33件（延べ件数）

内訳：小学校27件、中学校2件、福祉施設ほか4件

本申込を通じて話を聞いた方・体験した方 3,227人（延べ人数）

イ 内容 障害当事者等の講演・講習、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、講師派遣及び体験受入団体の調整、物品貸出 等

① 小学校・中学校・高校の先生との福祉教育についての懇談会

1回（8月23日）

② 福祉教育推進委員会委員研修

1回（3月12日）

③ 福祉教育に関わる広報啓発

より効果的な広報啓発について協議しました。

(16) 相談窓口設置機関（麻生市民館・やまゆり・社協）の連携強化

平成28年度に麻生区役所（麻生市民館）、NPO法人あさお市民活動サポートセンター（やまゆり）と麻生区社会福祉協議会が協力して、区内で活動している市民活動団体の情報を一元化し立ち上げた麻生区市民活動団体検索サイトの広報、周知に協力しました。

また、相談窓口・検索サイト担当者会議に参加し、令和6年度の取り組みについて協議しました。

5回（7月25日、9月2日、10月18日、1月7日、3月26日）



12 あんしんセンター事業

麻生区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的として、日常生活自立支援事業の実施及び成年後見制度の利用に向けた相談・支援を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業の実施

日常生活自立支援事業においては、福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス及び書類等預かりサービスを実施しました。福祉サービスの利用料の支払い、生活費の出金など金銭の出し入れの手続き、公共料金や医療費等の支払い手続きを行いました。

ア 日常生活自立支援事業にかかわる相談

相談件数 1111件（初回相談48件、継続相談1063件）

イ サービス契約者数（令和6年度3月末の継続利用者数）

福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス 26名

書類等預かりサービス 2名

(2) 成年後見制度の利用推進

川崎市社会福祉協議会川崎市あんしんセンターでは、川崎市から成年後見支援センター事業を受託し、各区あんしんセンターにおいても成年後見制度利用促進のため、広報や相談・支援を実施しました。

成年後見制度の概要や申立て手続きに関わる相談

相談件数 362件（初回相談103件、継続相談259件）

(3) 関係機関との連携及び連絡調整

行政機関や地域包括支援センター、地域相談支援センターが実施するカンファレンスや麻生区高齢者支援カンファレンス（年12回開催）に出席し、権利擁護支援にかかわる地域連携ネットワークの構築の推進に努めました。



13 老人いこいの家運営等事業

麻生区内7館の老人いこいの家の指定管理者として、地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活が送れるように、施設（各部屋）の利用をはじめ、教養講座や行事を開催し、高齢者の活動を支援しました。

また、各老人いこいの家の運営委員会と連携し、施設の適正な管理運営を行うとともに、地域福祉活動の拠点としての有効利用に努めました。

指定管理事業

(1) 老人いこいの家の運営委員会の開催

ア 王禅寺老人いこいの家 2回（7月3日、2月13日）

イ 片平老人いこいの家 2回（7月9日、1月24日）

ウ 千代ヶ丘老人いこいの家 1回（3月21日）

エ 白山老人いこいの家 2回（6月24日、1月21日）

オ 麻生老人いこいの家 4回（6月28日、7月19日、10月11日、3月14日）

カ 岡上老人いこいの家 2回（7月3日、2月12日）
 キ 百合丘老人いこいの家 3回（6月10日、12月17日、1月21日）

（2）令和6年度利用状況 開所日数合計2,047日 利用人数合計61,677人

（3）令和6年度入浴事業利用者の状況 利用者数合計0人（1館分）
 ※王禅寺老人いこいの家については、浴室タイル崩落の恐れがあるため、令和6年6月事業廃止

（4）教養の向上に関する事業
 公開講座・地域公開講座 開催回数計 99回 参加人数計1,274人

（5）レクリエーションに関する事業 開催回数計134回 参加人数計4,408人

（6）健康づくり・介護予防に関する事業
 区役所や地域包括支援センターが実施する事業に協力した。

（7）高齢者の社会参加を促し、高齢者の活躍の場につながる取り組みを推進
 ボランティア活動振興センター事業と連携し、高齢者がボランティアに関心を持っていた
 だけよう、関連リーフレットや活動紹介冊子等を各館に配架・設置した。

（8）消防訓練・避難訓練の実施 実施回数計7回 参加者数計197人

（9）老人いこいの家管理人研修会の開催
 ア 普通救命講習Ⅰ・救命処置実技（心肺蘇生およびAED）
 対面 1回（2月26日） 7名
 オンライン 3回（12月5日、1月16日、3月10日） 16名
 イ 管理人研修
 NI コラボ使用にかかる研修（10月15日、10月21日、10月29日）
 3回 23名
 情報セキュリティ研修（1月31日）1回 23名 ※オンライン
 熱中症対策にかかる研修（12月10日）1回 23名 ※オンライン
 ウ いこいの家代替臨時職員研修 ※書面による開催 1回（2月15日）
 代替臨時職員24名



1.4 災害活動関連事業

平成29年度の川崎市総合防災訓練（麻生区開催）をきっかけに、行政、市・区社協をメンバーに麻生区災害ボランティアセンター設置運営について検討を重ねました。令和2年度からは、会議名称を「麻生区災害ボランティアに関する連携会議」としてボランティア活動振興センター内に設置し、災害ボランティアセンターの設置・運営に限定することなく麻生区の災害ボランティアについて、麻生区総合防災訓練での広報啓発に合わせて、広く協議・検討することとなりました。

（1）災害ボランティアについての取り組みの推進（再掲）

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催
 現在、「川崎市社会福祉協議会 災害発生時対応マニュアル」改訂中のため、今年度の開催を見合わせました。
 イ 川崎市総合防災訓練（麻生区会場）への参加
 災害ボランティアセンターの設置運営訓練および啓発活動に向けて、職員は本部で開催した

事前研修にて、ICTを活用した災害ボランティアセンターの運営訓練に参加し、準備を進めてまいりましたが、台風１０号の接近に伴い防災訓練が中止となり、参加が出来ませんでした。

事前研修：１回（８月３０日）

防災訓練：１回（９月１日）※中止

ウ 麻生区総合防災訓練への参加

災害ボランティアセンターに関するパネルの展示やチラシの配布をし、区民の方に向けて普及啓発を行いました。

１回（１２月７日）

（２）災害対策・事業関連

事業継続計画を定期的に見直し、更新しました。

（３）災害発生時に必要な物品等の整備

アルファ米等、災害備蓄食品の保管・管理を行いました。

1 5 団体事務

関係団体事務局として、団体運営・活動に支援協力しました。

（１）神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会への協力

（２）麻生区民生委員児童委員協議会

（３）関係団体の事務協力

（４）麻生区賀詞交歓会の共催

令和７年麻生区賀詞交歓会の開催（１月８日）

1 6 その他

その他、地域福祉推進に必要な事業を実施しました。